

2006年度
オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業

「1CD Linux/UNIX リマスタリング
ツールの開発」
設計書

更新履歴

修正日	修正内容
2006/10/27	5.4.2 Deb プラグイン ・ オプションダイアログを追加 5.4.3 RPM プラグイン ・ オプションダイアログを追加
2006/12/01	3.5 ファイル操作画面 ・ 追加ファイル選択ダイアログ、ファイル編集ダイアログを追加 6.5 パッケージプラグイン ・ プラグインで提供するメソッドを修正
2006/12/02	3.11 パッケージ作成ツール ・ パッケージ作成ツールの画面イメージを最新化（メニューバーの追加）
2006/12/25	3.1 各画面共通部 ・ ファイルメニューに[インポート]、[エクスポート]を追加。 ・ 表示メニューに[最新の情報に更新]を追加。 6.1 プラグイン共通 ・ プラグインで提供するメソッドに最新情報への更新メソッド(refresh)、エクスポート(export)、インポート(import)メソッドを追加
2007/01/11	5.5.1 QEMU プラグイン ・ デフォルトのメモリサイズを 128MB から 256MB に変更(KNOPPIX を起動するために必要なメモリサイズ) ・ KNOPPIX50 プラグインの名称を KNOPPIX50-ja プラグインに変更
2007/01/29	全体 画面イメージを最新の状態に入れ替え
2007/02/22	全体 画面イメージを最新の状態に入れ替え プラグイン説明を分冊
2007/02/23	3.1.2 起動方法 ・ リマスタリングツールのコマンド名を remastertool から ez-tune-livecd に変更した

目次

1. はじめに.....	6
2. 動作プラットフォーム.....	6
3. 画面構成.....	7
3.1. 各画面共通部.....	7
3.1.1. 画面レイアウト.....	7
3.1.2. 起動方法.....	8
3.1.3. 部品説明.....	8
3.2. 初期設定画面.....	22
3.2.1. 画面レイアウト.....	22
3.2.2. フレーム説明.....	22
3.2.3. 部品説明.....	23
3.2.4. イベント処理.....	23
3.2.5. メニュー処理.....	24
3.2.6. ダイアログ.....	24
3.3. パッケージインストール/アンインストール画面.....	27
3.3.1. 画面レイアウト.....	27
3.3.2. フレーム説明.....	27
3.3.3. 部品説明.....	28
3.3.4. イベント処理.....	29
3.3.5. メニュー処理.....	29
3.3.6. ダイアログ.....	30
3.4. パッケージ作成画面.....	31
3.4.1. 画面レイアウト.....	31
3.4.2. フレーム説明.....	32
3.4.3. 部品説明.....	33
3.4.4. イベント処理.....	34
3.4.5. メニュー処理.....	34
3.4.6. ダイアログ.....	35
3.5. ファイル操作画面.....	36
3.5.1. 画面レイアウト.....	36
3.5.2. フレーム説明.....	36
3.5.3. 部品説明.....	37
3.5.4. イベント処理.....	37
3.5.5. メニュー処理.....	38
3.5.6. ダイアログ.....	38
3.6. 定型処理設定画面.....	42
3.6.1. 画面レイアウト.....	42
3.6.2. フレーム説明.....	42
3.6.3. 部品説明.....	43
3.6.4. イベント処理.....	43
3.6.5. メニュー処理.....	43
3.6.6. ダイアログ.....	44
3.7. 自動テスト設定画面.....	45
3.7.1. 画面レイアウト.....	45
3.7.2. フレーム説明.....	45
3.7.3. 部品説明.....	46

3.7.4. イベント処理.....	46
3.7.5. メニュー処理.....	46
3.7.6. ダイアログ.....	46
3.8. ディストリビューション作成画面.....	47
3.8.1. フレーム説明.....	47
3.8.2. 部品説明.....	48
3.8.3. イベント処理.....	48
3.8.4. メニュー処理.....	49
3.8.5. ダイアログ.....	49
3.9. 自動テスト実行画面.....	50
3.9.1. 画面レイアウト.....	50
3.9.2. フレーム説明.....	50
3.9.3. 部品説明.....	51
3.9.4. イベント処理.....	51
3.9.5. メニュー処理.....	51
3.9.6. ダイアログ.....	51
3.10. 操作手順編集画面.....	52
3.10.1. 画面レイアウト.....	52
3.10.2. フレーム説明.....	52
3.10.3. 部品説明.....	53
3.10.4. イベント処理.....	53
3.10.5. メニュー処理.....	53
3.10.6. ダイアログ.....	53
3.11. 仮想マシンテストツール.....	54
3.11.1. 画面レイアウト.....	54
3.11.2. 起動方法.....	54
3.11.3. フレーム説明.....	55
3.11.4. 部品説明.....	55
3.11.5. イベント処理.....	55
3.11.6. メニュー処理.....	55
3.11.7. ダイアログ.....	56
3.12. パッケージ作成ツール.....	57
3.12.1. 画面レイアウト.....	57
3.12.2. 起動方法.....	58
3.12.3. フレーム説明.....	59
3.12.4. 部品説明.....	59
3.12.5. イベント処理.....	59
3.12.6. メニュー処理.....	59
3.12.7. ダイアログ.....	59
4. ファイル構造.....	60
4.1. リマスタリング手順ファイル.....	60
4.1.1. リマスタリング手順ファイル構成.....	61
5. プラグイン.....	63
5.1. OSプラグイン.....	64
5.1.1. KNOPPIX5.0 ja プラグイン.....	64
5.2. メディアプラグイン.....	64
5.2.1. CD プラグイン.....	64
5.2.2. DVD プラグイン.....	66

5.2.3. USB プラグイン.....	67
5.3. エクスポートプラグイン.....	68
5.3.1. XML プラグイン.....	69
5.3.2. HTML プラグイン.....	69
5.3.3. Wiki プラグイン.....	73
5.4. パッケージプラグイン.....	75
5.4.1. Deb プラグイン.....	75
5.4.2. RPM プラグイン.....	84
5.5. エミュレータプラグイン.....	93
5.5.1. QEMU プラグイン.....	93
5.6. テストプラグイン.....	95
5.6.1. ファイルテストプラグイン.....	95
5.6.2. コマンドテストプラグイン.....	99

1. はじめに

本書は1CD Linux/Unix リマスタリングツール（以降「リマスタリングツール」）の設計書である。

2. 動作プラットフォーム

リマスタリングツールの動作条件を以下に示す。

コンポーネント		条件
ハードウェア	CPU	Intel x86 互換 CPU
	メモリ	1GB 以上
	HDD	10GB 以上の空き領域
ソフトウェア	OS	KNOPPIX 5.0
	Ruby	Ruby1.8
	Ruby/GTK	Ruby/GTK2
	エミュレータ	QEMU
	リマスタリング対象 OS	KNOPPIX 5.0

3. 画面構成

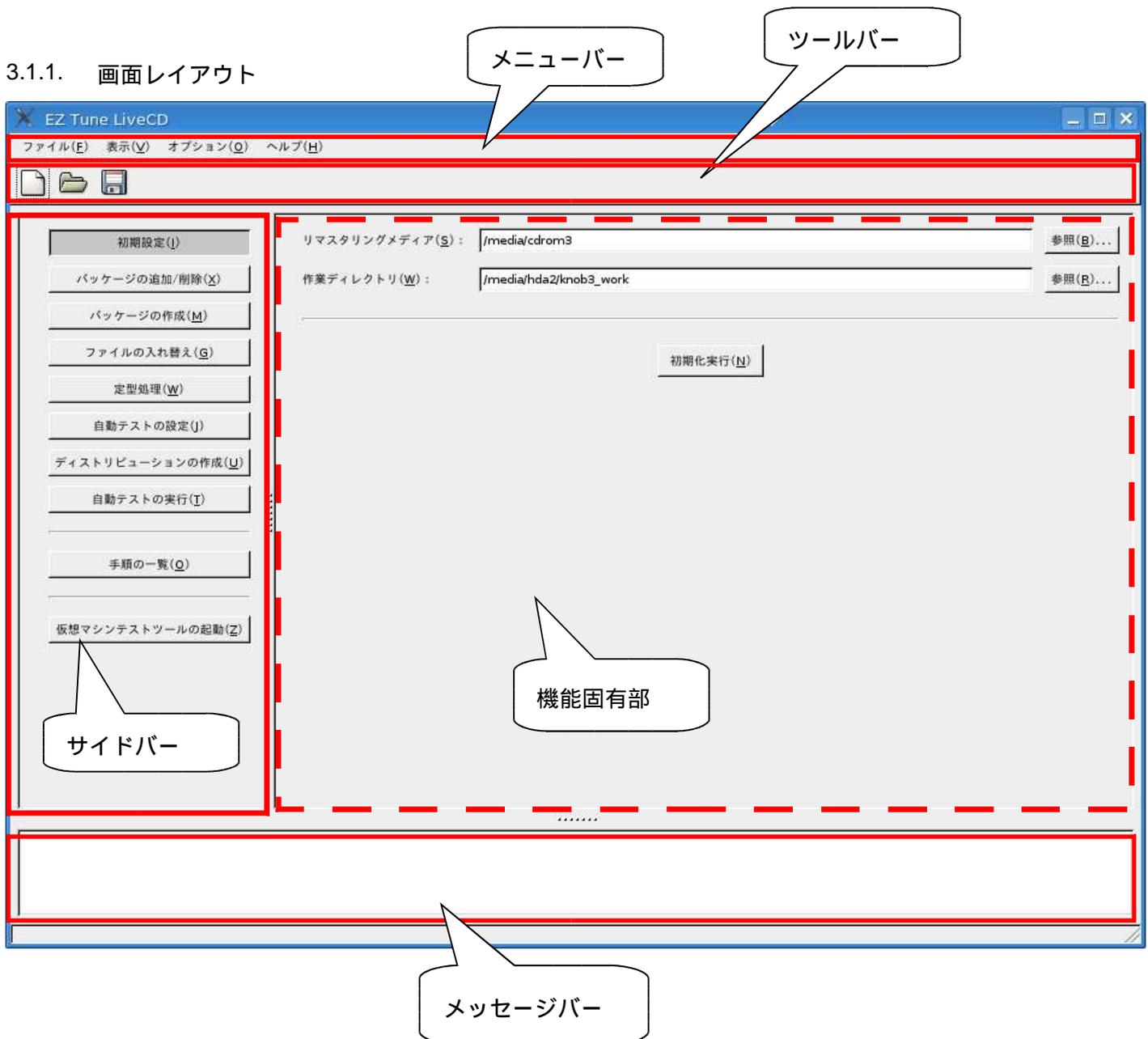
3.1. 各画面共通部

リマスタリングツールは各機能で共通のフレーム（下図の画面レイアウトの太線で囲んだ部分）と各機能固有のフレーム（下図の点線で囲んだ部分）に分けられる。

各機能共通のフレームは画面左のサイドバーフレームのボタンをクリックすると、対応する機能の画面を機能固有部に表示する。

本章では共通部の仕様について記述する。

3.1.1. 画面レイアウト



3.1.2. 起動方法

スーパーユーザになり、ez-tune-livecd コマンドを実行する。

```
$ su
Password: xxxxx
# ez-tune-livecd [-h] [-v] [リマスタリング手順ファイル]
```

本コマンドでサポートするオプションは以下の通り。

項番	オプション	説明
1	-h	コマンドの Usage を表示する。表示する内容は以下の通り。 Usage: ez-tune-livecd [options] [remaster_file] -v : print version -h : print this help remaster_file : read the remaster_file to the remastering procedure file
2	-v	リマスタリングツールのバージョンを表示する。表示する内容は以下の通り。 EZ Tune LiveCD V1.0
3	リマスタリング手順ファイル	起動時に開くリマスタリング手順ファイルを指定する。 本オプション省略時はリマスタリングツールは初期状態（リマスタリング操作が一切登録されていない状態）で起動する。

3.1.3. 部品説明

【メニューバー】

- ・ ファイルメニュー



メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
新規	N	CTRL+N
開く	O	CTRL+O
保存	S	CTRL+S
別名で保存	A	なし
インポート	I	なし
エクスポート	E	なし
終了	Q	CTRL+Q

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
新規	<p>リマスタリングツールが保持している情報を削除し、起動時の状態に戻す。 何らかの操作（下記参照）を行っている場合は「リマスタリング手順が変更されています。変更を保存しますか？」を表示して利用者への確認を行う。</p> <p>メッセージを表示するタイミング 新規にリマスタリングを実施している場合：初期設定完了後 リマスタリング手順を読み込んだ場合：1つ以上の手順の追加・更新・削除を実施後</p> <p>確認ダイアログで「はい」が選択された場合、「リマスタリング手順保存ダイアログ」を開き、リマスタリング手順の保存を実施する。</p>
開く	<p>リマスタリングツールが保持している情報を削除し、リマスタリング手順選択ダイアログから選択してリマスタリング手順を読み込む。</p> <p>何らかの操作（下記参照）を行っている場合は「リマスタリング手順が変更されています。変更を保存しますか？」を表示して利用者への確認を行う。</p> <p>メッセージを表示するタイミング 新規にリマスタリングを実施している場合：初期設定完了後 リマスタリング手順を読み込んだ場合：1つ以上の手順の追加・更新・削除を実施後</p> <p>確認ダイアログで「はい」が選択された場合、「リマスタリング手順保存ダイアログ」を開き、リマスタリング手順の保存を実施する。</p>
保存	<p>リマスタリング手順ファイルを読み込んで作業している場合、元のファイルに上書き保存する。</p> <p>新規にリマスタリング作業を実施している場合、「リマスタリング手順保存ダイアログ」を開き、リマスタリング手順の保存を実施する。</p>
別名で保存	<p>リマスタリング手順保存ダイアログを開き、リマスタリング手順の保存を実施する。 すでに存在するファイルを保存先として指定した場合、上書きの可否を確認するメッセージを表示する（メッセージダイアログのイメージについては「リマスタリング手順ファイル保存ダイアログ」の章を参照のこと。</p>
インポート	<p>ファイル選択ダイアログを開き、他環境で作成したリマスタリング環境ファイルを現在のリマスタリング環境に読み込む。</p>
エクスポート	<p>ファイル選択ダイアログを開き、リマスタリング環境ファイルを保存する。</p>
終了	<p>リマスタリングツールが保持している情報を削除し、ツールを終了する。 何らかの操作（下記参照）を行っている場合は「リマスタリング手順が変更されています。変更を保存しますか？」を表示して利用者への確認を行う。</p> <p>メッセージを表示するタイミング 新規にリマスタリングを実施している場合：初期設定完了後 リマスタリング手順を読み込んだ場合：1つ以上の手順の追加・更新・削除を実施後</p> <p>確認ダイアログで「はい」が選択された場合、「リマスタリング手順保存ダイアログ」を開き、リマスタリング手順の保存を実施する。</p>

・表示メニュー

v ツールバー
v サイドバー
v メッセージバー
最新の情報に更新

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
ツールバー	T	なし
サイドバー	S	なし
メッセージバー	M	なし
最新の情報に更新	R	F5

先頭の "v" はチェックマークを示し、メニュー選択毎にチェック 未チェックが切り替わる。

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
ツールバー	メニューのチェックマークが未チェック状態のときに本項目を選択してチェック状態にすると、ツールバーを表示する。 メニューのチェックマークがチェック状態のときに本項目を選択して未チェック状態にすると、ツールバーを隠す（表示しない）。
サイドバー	メニューのチェックマークが未チェック状態のときに本項目を選択してチェック状態にすると、サイドバーを表示する。 メニューのチェックマークがチェック状態のときに本項目を選択して未チェック状態にすると、サイドバーを隠す（表示しない）。
メッセージバー	メニューのチェックマークが未チェック状態のときに本項目を選択してチェック状態にすると、メッセージバーを表示する。 メニューのチェックマークがチェック状態のときに本項目を選択して未チェック状態にすると、メッセージバーを隠す（表示しない）。
最新の情報に更新	画面に表示されている機能を対象にして表示内容を最新状態に更新する。 更新する情報の対象はシステムから取得する情報（ファイルシステムツリー、インストールされているパッケージ、インストール可能なパッケージなど）とする。 インストールするパッケージなどリマスタリング手順については更新対象としない（手順ファイルを再読み込みしての表示更新は行わない）。

・オプションメニュー

リマスタリングツールの設定(R)
xxx プラグインの設定

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
リマスタリングツールの設定	R	なし
xxx プラグインの設定		

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
リマスタリングツールの設定	リマスタリングツールの設定ダイアログを表示する。
xxx プラグインの設定	xxx にはプラグイン名が入る。 選択時は該当するプラグインのオプション設定ダイアログを表示する。ダイアログはプラグイン側で表示する。オプション設定のできるプラグインの数だけ「xxx プラグインの設定」メニュー項目を表示する。 注) リマスタリングツール起動時に各プラグインに対してオプション設定があるか問い合わせを行い、オプションメニューのあるプラグインのみオプションメニューに表示する。

・ヘルプメニュー

リマスタリングツールについて(A)
xxx プラグインについて

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
リマスタリングツールについて	A	なし
xxx プラグインについて		

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
EZ Tune LiveCD について	リマスタリングツールのアバウトダイアログを表示する。
xxx について	xxx にはプラグイン名が入る。 選択時は xxx に該当するプラグインのアバウトダイアログを表示する。ダイアログはプラグイン側で表示する。アバウトダイアログを用意しているプラグインの数だけ「xxx プラグインについて」のメニュー項目を表示する。 注) リマスタリングツール起動時に各プラグインに対してアバウトダイアログを持つか問い合わせを行い、ダイアログを持つプラグインのみヘルプメニューに表示する。

【ツールバー】

表示されているアイコンをクリックすることにより、通常はメニューを開いて呼び出す機能をダイレクトに実行することができる機能である。

初期状態では以下の3つのアイコンが表示されている。



ツールバーに表示するアイコンは「設定」メニューの「リマスタリングツールの設定」を選択することにより変更することができる。

以下に用意するアイコンと対応するメニュー項目を示す。

アイコン	メニュー項目
	[ファイル]-[新規]
	[ファイル]-[開く]
	[ファイル]-[保存]

【サイドバー】

サイドバーはサイドバー右に表示する各機能固有部の表示切り替えを行う。表示の切り替えはサイドバー上のボタンをクリックすることで行うことができる。現在選択されている機能はボタンが押された状態（凹状態）になっている。

なお、新規にリマスタリング作業を実施する場合、初期設定が完了するまでは [初期設定]、[パッケージの作成]、[仮想マシンテストツールの起動]ボタン以外はクリックできない（無効状態になっている）。初期設定が完了すると [初期設定] 以外のボタンが有効になり、選択可能となる。

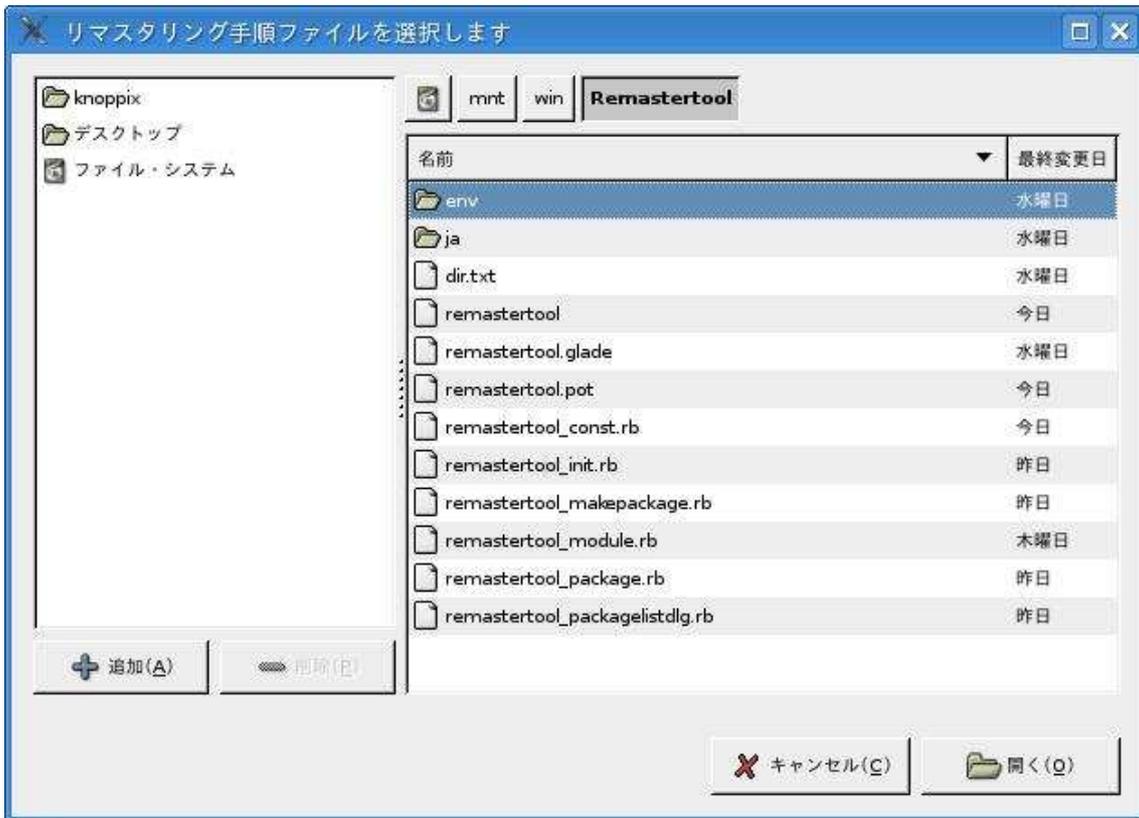


以下にサイドバーのボタンと表示する画面の対応を示す。

項目	ショートカットキー	表示する画面	備考
初期設定	ALT+I	初期設定画面	起動直後に選択されている
パッケージの追加 / 削除	ALT+X	パッケージの追加 / 削除画面	
パッケージの作成	ALT+M	パッケージ作成画面	
ファイルの入れ替え	ALT+G	ファイル操作画面	
定型処理	ALT+W	定型処理画面	
自動テストの設定	ALT+J	自動テスト設定画面	
ディストリビューションの作成	ALT+U	ディストリビューション作成画面	
自動テストの実行	ALT+T	自動テスト実行画面	
手順の一覧	ALT+O	リマスタリング手順一覧画面	
仮想マシンテストツールの起動	ALT+Z	仮想マシンテストツール	別プロセスとして起動

【各種ダイアログ】

- リマスタリング手順ファイル選択ダイアログ
[ファイル] - [開く]メニューを選択するとオープンする。



ファイル（リマスタリング手順ファイル）を選択して [開く] ボタンをクリックすると、選択したリマスタリング手順ファイルの読み込みを行う（Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログ（オープンモード））。

- リマスタリング手順ファイル保存ダイアログ
[ファイル] - [別名で保存]メニューを選択するか、リマスタリング手順新規作成時に [ファイル] - [保存]メニューを選択するとオープンする。

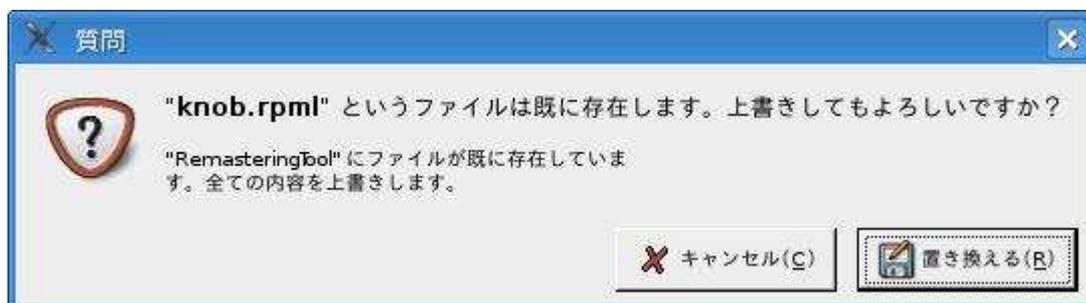


ファイル（リマスタリング手順ファイル）名を入力して[保存]ボタンをクリックすると、指定したファイルにリマスタリング手順を保存する(Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログ（保存モード））。

なお、Ruby/GTK2 標準のダイアログに[ファイルの種類]コンボボックスを付加して利用者がファイルの保存形式を選択できるようにする。選択できるファイルの種類はエクスポートプラグインの数だけコンボボックスにリストされる。

初期状態では "XML" が選択された状態になっている。

すでに存在しているファイルを指定した場合、以下のダイアログを開き上書きの是非を確認する (Rub/GTK2 標準の上書き確認メッセージダイアログ)。

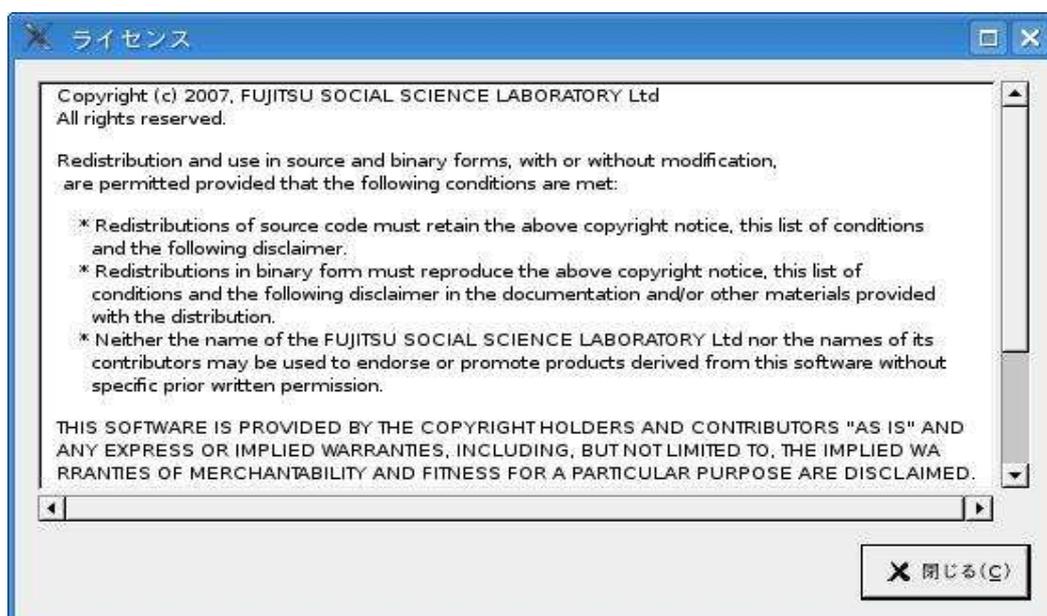


- ・ アバウトダイアログ

[ヘルプ]-[EZ Tune LiveCD について]メニューを選択するとオープンする。



リマスタリングツールのバージョン、および、コピーライトを表示する。[ライセンス] ボタン押下時は以下の画面を表示する。



以下にライセンスの全文を示す (修正 BSD ライセンス)

Copyright (c) 2007, FUJITSU SOCIAL SCIENCE LABORATORY Ltd
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of the FUJITSU SOCIAL SCIENCE LABORATORY Ltd nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

・ オプションダイアログ

[オプション]-[リマスタリングツールの設定]メニューを選択するとオープンする。設定項目にはネットワーク、インストール、ログのカテゴリがあり、各カテゴリ毎にタブページを持つ。

【ネットワークタブ】



オプションダイアログの部品説明（ネットワークタブ）

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	タブ	ノートブック		オプション設定を行うカテゴリの切り替えを行う。 用意するタブは以下のとおり。 ・ネットワーク ・インストール ・ログ ・保存
2	サーバ	エントリ（エディットボックス）	ALT+S	DNSサーバを設定する。 この部品にサーバを指定し、[追加]ボタンを押下するとサーバリストに追加する。 初期状態では空欄で表示する。
3	サーバリスト	ツリービュー（リスト）		DNSサーバとして設定されているサーバの一覧を表示する。 初期状態では前回リマスタリングツールを実行したときに設定した内容を復元して表示する。 リマスタリングツールを初めて起動した場合は空で表示する。
4	追加	ボタン	ALT+A	[サーバ]エントリに記述した内容をサーバリストに追加する。
5	変換	ボタン	ALT+C	サーバリストで選択されている行を[サーバ]エントリに記述

項番	名前	部品	ショートカット	説明
				した内容に変更する。
6	削除	ボタン	ALT+R	サーバリストで選択されている行を削除する。
7	プロキシサーバを使用する	チェックボタン (チェックボックス)	ALT+U	インターネットに接続するときにプロキシサーバを経由するか否かを設定する (apt-get コマンドでパッケージを取得する際に使用する)。 初期状態では前回リマスタリングツールを実行したときに設定した内容を復元して表示する。 リマスタリングツールを初めて起動した場合、環境変数 http_proxy または ftp_proxy のいずれかが設定されている場合にチェック状態にする。
8	HTTP プロキシ	エントリ (エディットボックス)	ALT+H	HTTP プロトコルを使用してインターネットに接続する際に使用するプロキシサーバを設定する。 初期状態では前回リマスタリングツールを実行したときに設定した内容を復元して表示する。 リマスタリングツールを初めて起動した場合、環境変数 http_proxy の内容を表示する。 [プロキシサーバを使用する]チェックボタンが未チェック状態の場合、本部品は無効状態となり設定内容を変更できない。
9	FTP プロキシ	エントリ (エディットボックス)	ALT+F	FTP プロトコルを使用してインターネットに接続する際に使用するプロキシサーバを設定する。 リマスタリングツールを初めて起動した場合、環境変数 ftp_proxy の内容を表示する。 [プロキシサーバを使用する]チェックボタンが未チェック状態の場合、本部品は無効状態となり設定内容を変更できない。
10	kpackage を起動	ボタン	ALT+R	kpackage コマンドを起動する。 kpackage コマンドを使用して apt、rpm 等のパッケージ操作コマンドの設定 (パッケージの格納場所など) を設定するために使用する。
11	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを終了する。
1 2	OK	ボタン	ALT+O	設定された内容を反映してダイアログを終了する。

オプションダイアログのイベント処理 (ネットワークタブ)

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 リマスタリングツール前回実行時の設定を読み込む (GConf を使用)。 2 前回の設定が取得できた場合、部品 3,7,8,9 の状態を取得した内容で復元する。 3 前回の設定が取得できない場合、環境変数 http_proxy、ftp_proxy の内容をそれぞれ、[HTTP プロキシ]、[FTP プロキシ] エントリに設定する。また、環境変数 http_proxy、ftp_proxy のいずれかが設定されている場合、[プロキシサーバを使用する] チェックボタンをチェック状態に設定する。環境変数が両方とも設定されていない場合、チェックボタンを未チェック状態にし、[HTTP プロキシ]、[FTP プロキシ] エントリを無効状態にする。
2	プロキシサーバを使用するチェックボタンのクリック	1 チェックボタンがチェック状態の場合、[HTTP プロキシ]、[FTP プロキシ] エントリを有効状態にする。 2 チェックボタンが未チェック状態の場合、[HTTP プロキシ]、[FTP プロキシ] エントリを無効状態にする。
3	追加ボタンのクリック	1 [サーバ] エントリに記述した内容をサーバリストに追加する。
4	変換ボタンのクリック	1 サーバリストで選択されている行を[サーバ] エントリに記述した内容に変更する。
5	削除ボタンのクリック	1 サーバリストで選択されている行を削除する。
6	キャンセルボタンのクリック	1 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。

7	OK ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 各部品の入力チェック規約に従って入力チェックを行う。入力エラーがあった場合はエラーメッセージを表示してエラー原因の部品があるタブページを表示する。 プロキシを使用する場合、[HTTP プロキシ]、[FTP プロキシ]の内容を環境変数 http_proxy、ftp_proxy に設定する。 DNS サーバの設定内容をリマスタリング対象 OS の/etc/resolv.conf に反映する。 オリジナルはバックアップを取り、最終的（リマスタリング実施時）にはオリジナルのファイルに戻す。 設定内容を設定ファイルに保存する（GConf を使用）。 ダイアログを閉じる。
---	-------------	---

【インストールタブ】



オプションダイアログの部品説明（インストールタブ）

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ターミナルコマンド	エントリ（エディットボックス）	ALT+T	リマスタリング時にパッケージのインストールコマンドを実行するターミナルウィンドウのコマンドを設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】前回設定した内容を Gconf から取得して設定する。 初回起動時は xterm -e %s を表示する。 【入力チェック】未入力不可
2	参照	ボタン	ALT+B	ターミナルコマンドを選択するために Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 ファイル選択ダイアログで選択したコマンドのパスは[ターミナルコマンド]エディットボックスに設定する。

オプションダイアログのイベント処理 (インストールタブ)

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> リマスタリングツール前回実行時の設定を読み込む (GConf を使用)。 前回の設定が取得できた場合、部品 1 の状態を取得した内容で復元する。 前回の設定が取得できない場合、" xterm -e %s" を部品 1 に設定する。
2	参照ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログをモーダルダイアログとして表示する。 ダイアログから[開く]ボタンの押下で復帰した場合、[ターミナルコマンド]エディットボックスにダイアログで選択したファイルパスを表示する。

【ログタブ】



オプションダイアログの部品説明 (ログタブ)

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ログディレクトリ	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	<p>ログファイルを出力するディレクトリを設定する。</p> <p>【最大長】4096 文字</p> <p>【初期値】前回設定した内容を Gconf から取得して設定する。初回起動時は /var/log を表示する。</p> <p>【入力チェック】未入力不可</p>
2	参照	ボタン	ALT+B	<p>ログディレクトリを選択するために Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く (ディレクトリオープンモード)。ファイル選択ダイアログで選択したディレクトリのパスは [ログディレクトリ]エディットボックスに設定する。</p>

項番	名前	部品	ショートカット	説明
3	ログレベル	コンボボックス	ALT+G	ログファイルに出力する情報の粒度を設定する。 選択可能な選択肢は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・0 (ログを出力しません) ・1 (エラーログのみ出力します) ・2 (エラーと警告ログを出力します) ・3 (詳細なログを出力します)

オプションダイアログのイベント処理 (ログタブ)

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> 1 リマスタリングツール前回実行時の設定を読み込む (GConf を使用)。 2 前回の設定が取得できた場合、部品 1, 3 の状態を取得した内容で復元する。 3 前回の設定が取得できない場合、"/var/log/ez" を部品 1 に設定する。"0 (ログを出力しません)" を部品 3 の選択状態に設定する。
2	参照ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログをモーダルダイアログとして表示する。 2 ダイアログから[開く]ボタンの押下で復帰した場合、[ログディレクトリ]エディットボックスにダイアログで選択したディレクトリを表示する。

【保存タブ】



オプションダイアログの部品説明 (保存タブ)

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	手順保存対象機能	ツリービュー（リスト）		リマスタリング手順を保存する機能を設定する。 チェックボックスを未チェック状態にすると、未チェックの機能はリマスタリング手順保存時に手順が保存対象とならない。

オプションダイアログのイベント処理（保存タブ）

なし

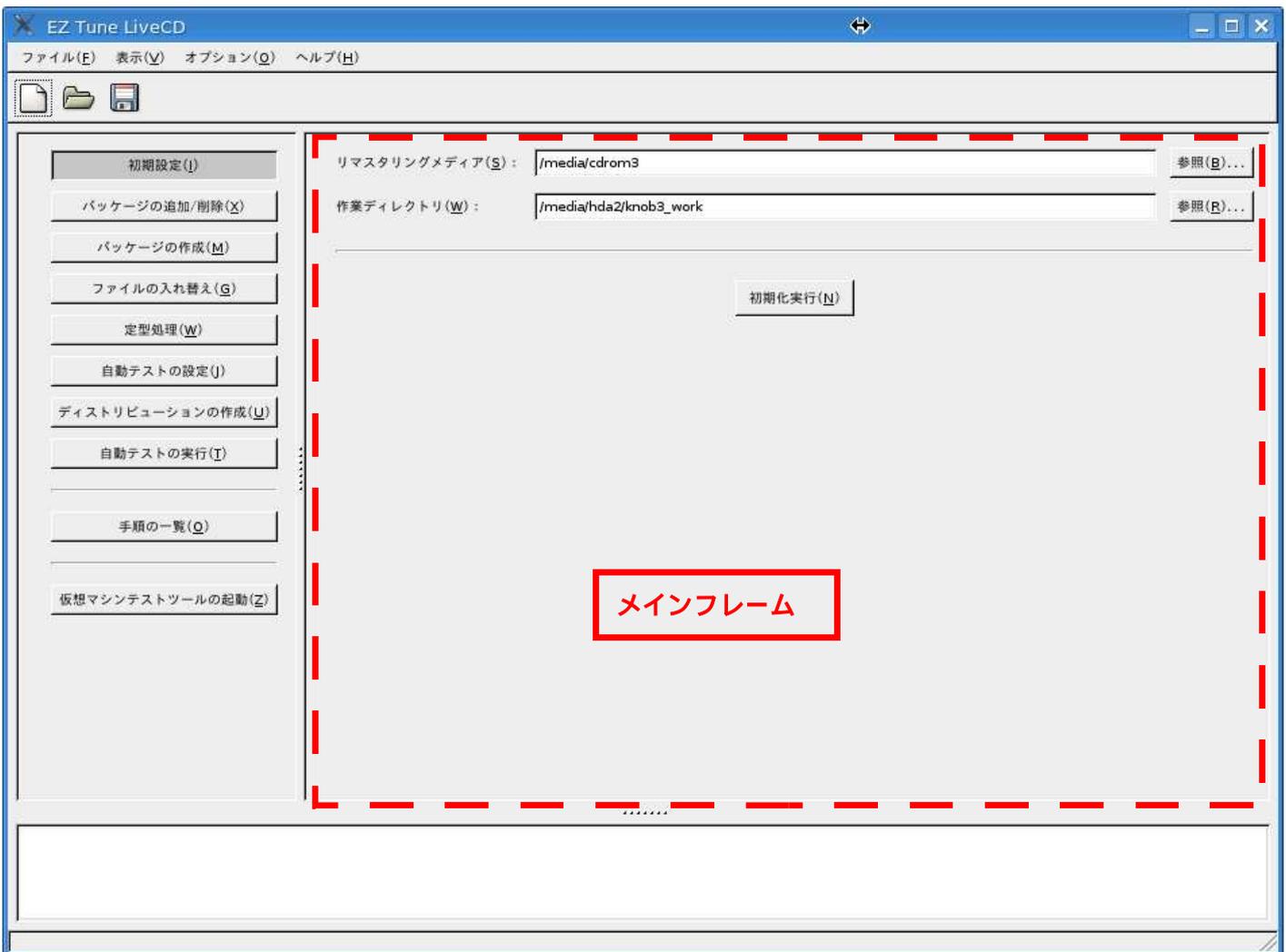
3.2. 初期設定画面

リマスタリングツール起動直後に表示する画面である。

リマスタリング作業は本画面で初期設定を行う、もしくは、メニューバーの[ファイル] - [開く]でリマスタリング手順ファイルを読み込むことにより開始する。

新規にリマスタリングを行う場合、この画面でリマスタリングのベースとなるOSを格納したCDのマウントポイントと作業用にCDのイメージをコピーするディレクトリを指定した後で[初期化を実行]ボタンをクリックすることでリマスタリング対象OSのイメージが作業用ディレクトリにコピーされる。

3.2.1. 画面レイアウト



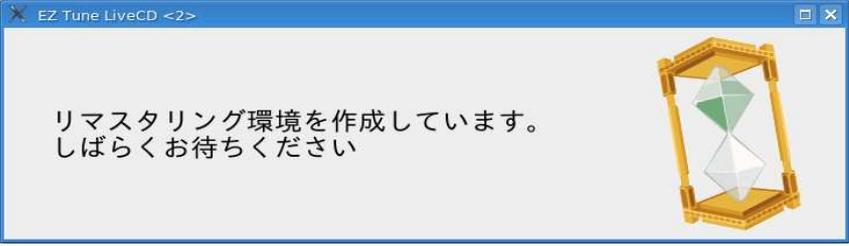
3.2.2. フレーム説明

名前	説明	備考
メインフレーム	初期設定画面の唯一のフレームである。 このフレームで初期設定情報の入力を行う。	

3.2.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショート カットキー	説明
1	リマスタリングメディア	エディット ボックス	ALT+S	リマスタリングのベースとなるメディアがマウントされているディレクトリを指定する。 【最大長】2048文字 【初期値】無し 【入力チェック】存在するディレクトリであること、未入力不可
2	参照	ボタン	ALT+B	リマスタリングメディア選択ダイアログを表示する。ダイアログで選択したディレクトリは「リマスタリングメディア」エディットボックスに反映する。
3	作業ディレクトリ	エディット ボックス	ALT+W	リマスタリング作業中の資源を格納するディレクトリを指定する。 【最大長】2048文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
4	参照	ボタン	ALT+R	作業ディレクトリ選択ダイアログを表示する。ダイアログで選択したディレクトリは「作業ディレクトリ」エディットボックスに反映する。
5	初期化実行	ボタン	ALT+N	作業環境の初期化を実行する。

3.2.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	参照（リマスタリングメディア）ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 リマスタリングメディア選択ダイアログをモーダルダイアログとして表示する。 2 ダイアログから[開く]ボタンの押下で復帰した場合、[リマスタリングメディア]エディットボックスにダイアログで選択したディレクトリを表示する。
2	参照（作業ディレクトリ）ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業ディレクトリ選択ダイアログをモーダルダイアログとして表示する。 2 ダイアログから[開く]ボタンの押下で復帰した場合、[作業ディレクトリ]エディットボックスにダイアログで選択したディレクトリを表示する。
3	初期化実行ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 メッセージボックスで以下のメッセージを表示し、初期化実行の可否を利用者に確認する。 「リマスタリング環境の初期設定を実行します。初期設定を行うと作業ディレクトリの内容はすべて削除されます。初期設定を実行しますか？」 2 メッセージボックスで[いいえ]ボタンがクリックされた場合、以降の処理は実行しない。 3 処理実行中を示す以下のダイアログを表示し、表示中はメインウインドウの操作を行えないようにする。  4 該当するプラグイン（初版ではKNOPPIXプラグイン）の初期設定処理を呼び出し、以下の資源を作業用ディレクトリにコピーする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リマスタリングOSのCDの内容 ・リマスタリングOSのOSディレクトリツリー 5 で表示したウインドウを閉じる。

3.2.5. メニュー処理

ポップアップメニューはない。

3.2.6. ダイアログ

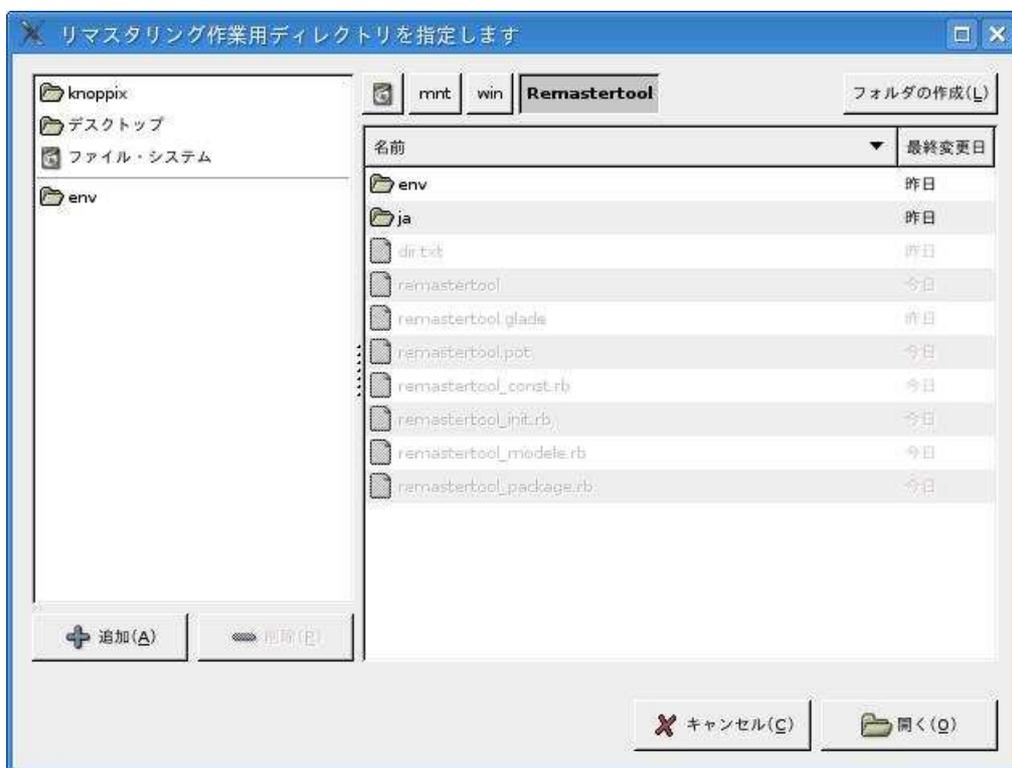
【リマスタリングメディア選択ダイアログ】



ディレクトリ（リマスタリングのベースとなるメディアのマウントポイント）を選択して「開く」ボタンをクリックすると、選択したディレクトリを「ベースメディア」エディットボックスに設定する（Ruby/GTK2標準のファイル選択ダイアログ（ディレクトリオープンモード））。

【作業ディレクトリ選択ダイアログ】

ディレクトリ（リマスタリングの作業用ディレクトリ）を選択して [開く] ボタンをクリックすると、選択したディレクトリを [作業ディレクトリ] エディットボックスに設定する（Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログ（ディレクトリオープンモード））。

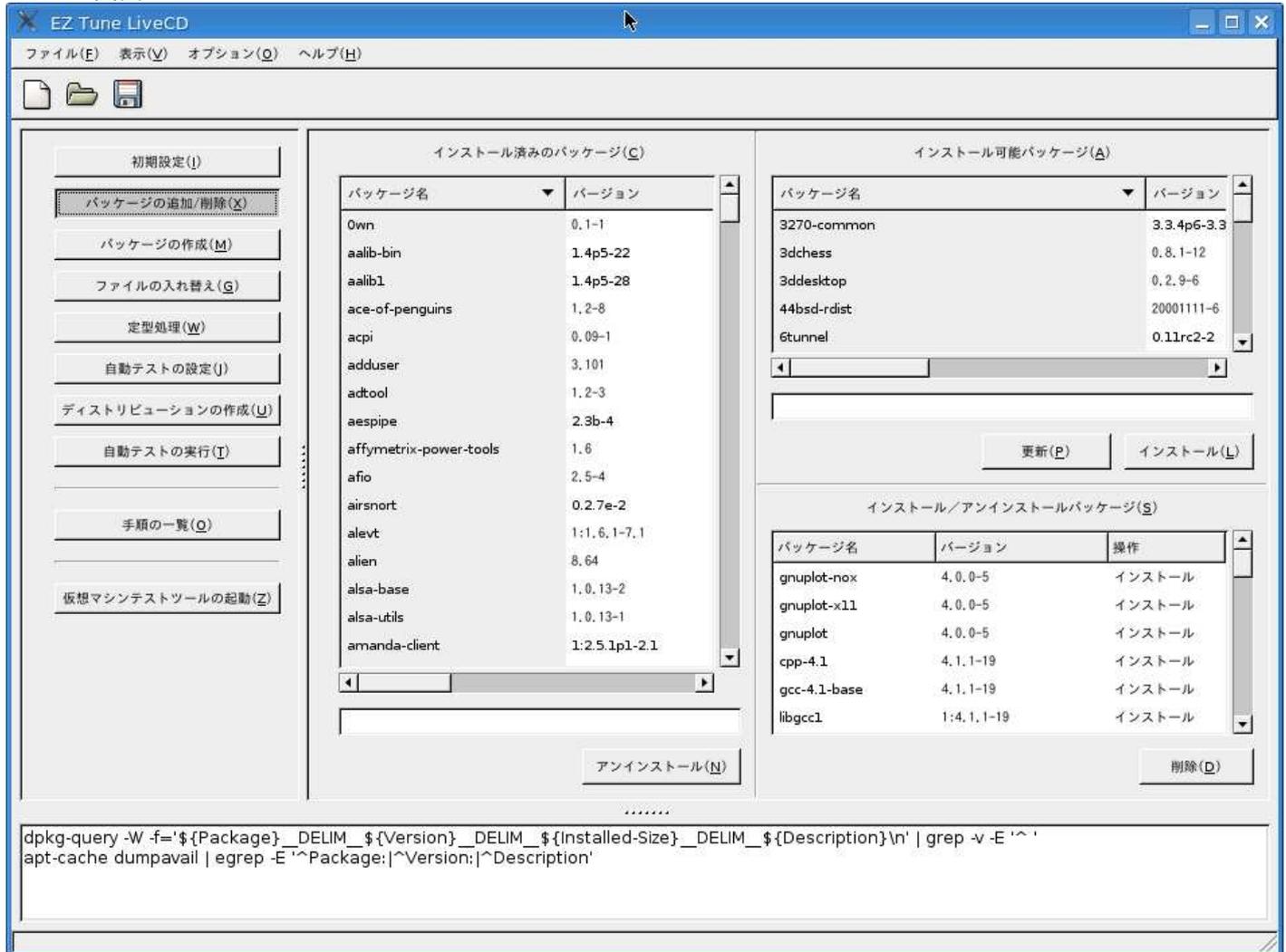


3.3. パッケージインストール/アンインストール画面

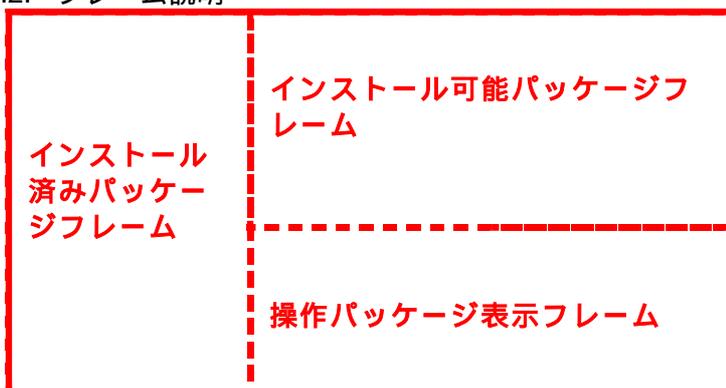
サイドバーの [パッケージの追加/削除] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではパッケージ単位の操作 (インストール済みパッケージのアンインストール、パッケージの追加インストール) を行うことを目的とする。

3.3.1. 画面レイアウト



3.3.2. フレーム説明

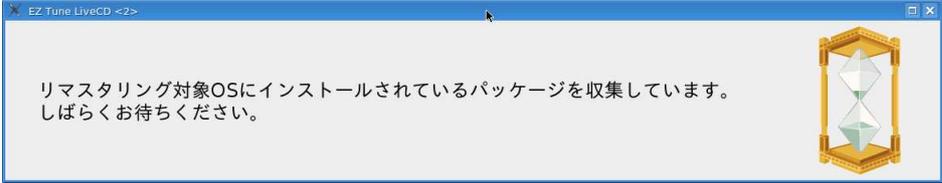
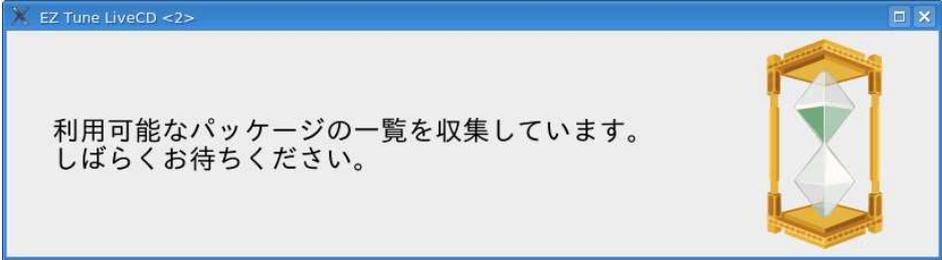
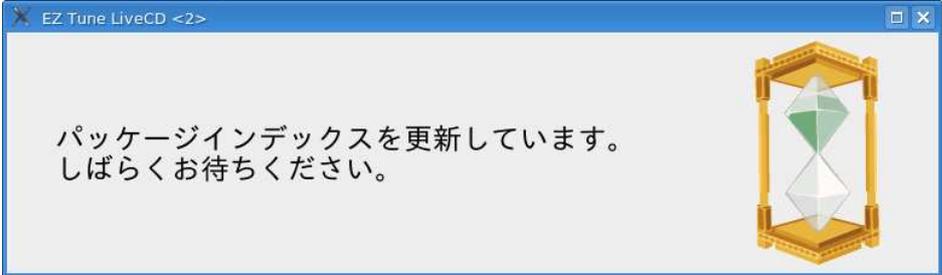


名前	説明
インストール済みパッケージフレーム	リマスタリング対象 OS にインストールされているパッケージの一覧を表示し、アンインストールするパッケージを選択する。 パッケージプラグインから（初版の KNOPPIX では Deb プラグインから）取得したデータを一覧表示する。
インストール可能パッケージフレーム	インストール可能なパッケージの一覧を表示し、追加インストールするパッケージを選択する。 パッケージプラグインから（初版の KNOPPIX では Deb プラグインから）取得した作業用 OS で使用可能なパッケージ一覧データを一覧表示する。
操作パッケージフレーム	リマスタリング対象 OS に追加インストールするパッケージ、および、リマスタリング対象 OS からアンインストールするパッケージの一覧を表示する。

3.3.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	インストール済みのパッケージ	ツリービュー (リスト)	ALT+C	リマスタリング対象 OS にインストールされているパッケージの一覧を表示する。 一覧に表示する項目は「パッケージ名」、「バージョン」、「説明」の 3 項目。 パッケージ名の昇順でソートして表示する。 表示するデータはパッケージプラグインから取得する。
2	アンインストール	ボタン	ALT+N	インストール済みパッケージの一覧で選択されているパッケージをアンインストール対象のパッケージとする。 クリック時に選択されていたパッケージは操作パッケージフレームの一覧に追加表示する（既に同一のパッケージが操作パッケージフレームに表示されている場合は追加しない）。
3	インストール可能パッケージ	ツリービュー (リスト)	ALT+A	リマスタリング対象 OS にインストール可能なパッケージの一覧を表示する。一覧に表示する項目は「パッケージ名」、「バージョン」、「説明」の 3 項目。 パッケージ名の昇順でソートして表示する。 表示するデータはパッケージプラグインから取得する。
4	更新	ボタン	ALT+P	[インストール可能パッケージ]に表示している内容を最新の状態に更新する。 更新作業はパッケージプラグインが実施する（リマスタリングツールプラグインの処理を呼び出すのみ）。
5	インストール	ボタン	ALT+L	インストール可能パッケージの一覧で選択されているパッケージを追加インストール対象のパッケージとする。 クリック時に選択されていたパッケージは操作パッケージフレームの一覧に追加表示する（既に同一のパッケージが操作パッケージフレームに表示されている場合は追加しない）。
6	インストール / アンインストールパッケージ	ツリービュー (リスト)	ALT+S	リマスタリング対象 OS に追加インストール / アンインストール指定されたパッケージの一覧を表示する。 一覧に表示する項目は「パッケージ名」、「バージョン」、「操作」の 3 項目。 本リストに追加された順に表示する。
7	削除	ボタン	ALT+D	インストール / アンインストールパッケージの一覧で選択されているパッケージを操作対象のパッケージから除外する（リストから削除する）。

3.3.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<p>1 OSプラグインの「インストール済みパッケージ一覧取得」処理を呼び出し、取得したデータをインストール済みパッケージの一覧に表示する。情報取得中は以下の処理待ち画面を表示する。</p>  <p>2 パッケージのプラグインの「インストール可能パッケージ一覧取得」処理を呼び出し、取得したインストール可能なパッケージの一覧を対応するタブ内のリストに設定する。情報取得中は以下の処理待ち画面を表示する。</p> 
2	アンインストールボタンのクリック	<p>1 [インストール済みパッケージ]リストで選択されているパッケージを[インストール/アンインストールパッケージ]リストに追加する（重複する場合は追加しない）。</p>
3	更新ボタンのクリック	<p>1 パッケージプラグインの「インストール可能パッケージ一覧取得」処理を呼び出し、インストール可能なパッケージの一覧を取得する。情報取得中は以下の処理待ち画面を表示する。</p>  <p>2 [インストール可能パッケージ]リストの内容をすべて削除する。 3 1で取得したデータを[インストール可能パッケージ]リストに設定する。</p>
4	インストールボタンのクリック	<p>1 パッケージプラグインの「インストール選択」処理を呼び出す。 パッケージプラグインで期待する処理は以下。 (1) [インストール可能パッケージ]リストで選択されているパッケージローカルマシンのキャッシュディレクトリから検索する（インストール対象パッケージが依存するパッケージも含む）。 (2) 1の検索でパッケージファイルが見つからなかった場合、ネットワーク上のパッケージ配布サイトからパッケージを取得する。 (3) 取得したパッケージデータを返却する。 2 パッケージプラグインから取得したデータを[インストール/アンインストールパッケージ]リストに追加する（重複する場合は追加しない）。</p>
5	削除ボタンのクリック	<p>1 [インストール/アンインストールパッケージ]リストで選択されているパッケージを[インストール/アンインストールパッケージ]リストから削除する。</p>

3.3.5. メニュー処理

- インストール済みのパッケージリストのポップアップメニュー

アンインストール(U)

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
アンインストール	U	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
アンインストール	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作はアンインストールボタンのクリック時と同じ。

- インストール可能パッケージリストのポップアップメニュー（プラグインが表示）

インストール(I)

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
インストール	I	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
インストール	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作はインストールボタンのクリック時と同じ。

- インストール / アンインストールパッケージリストのポップアップメニュー

削除(D)

メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は削除ボタンのクリック時と同じ。

3.3.6. ダイアログ

なし。

3.4. パッケージ作成画面

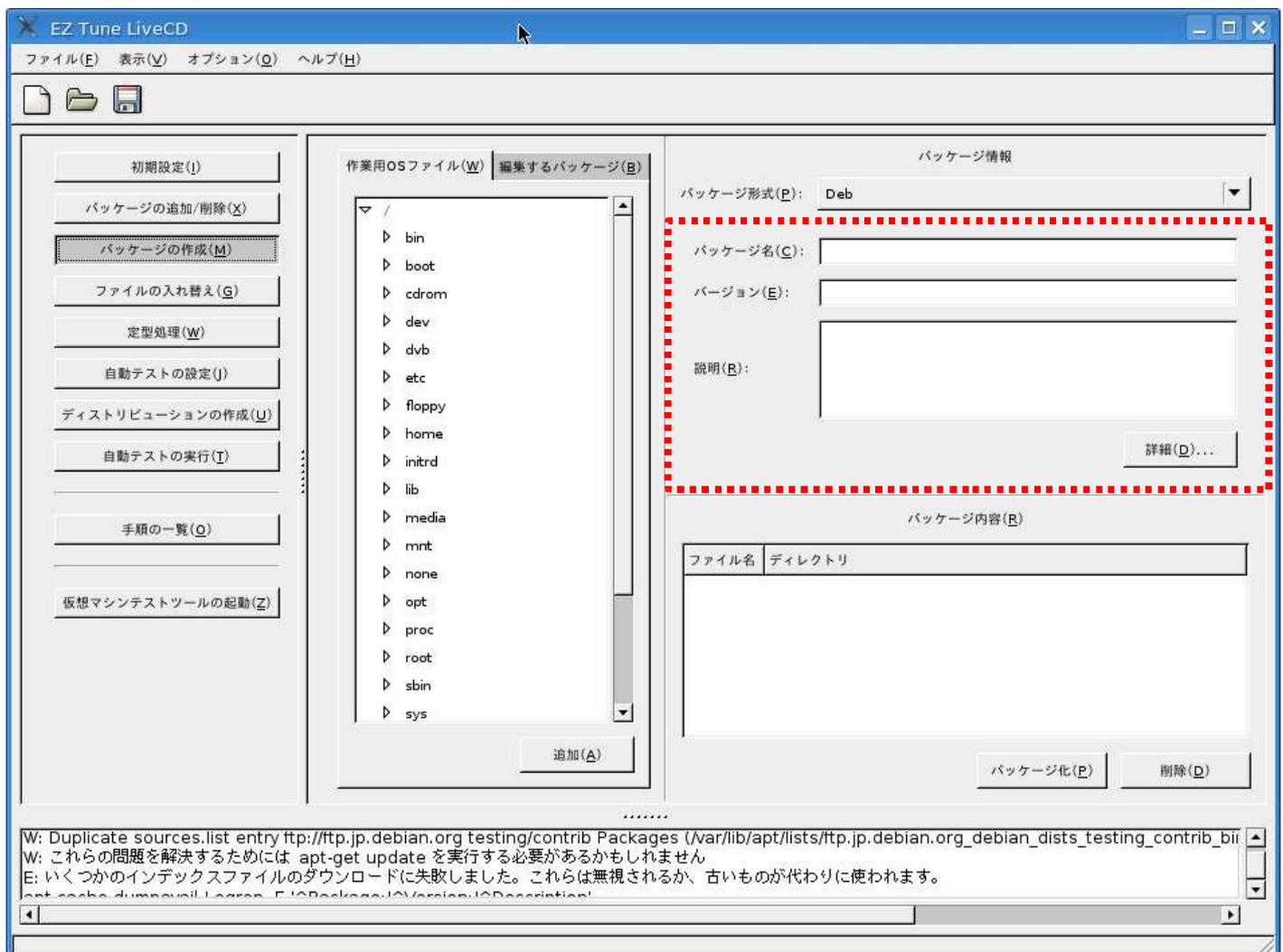
サイドバーの「パッケージの作成」ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面では作業用OSにインストールされているファイルを指定して新たにパッケージを作成する。

パッケージ化してリマスタリング対象OSにインストールすることでリマスタリング後のパッケージの入れ替えを容易にすることを目的とする。

3.4.1. 画面レイアウト

「作業用OSファイル」タブを表示している場合

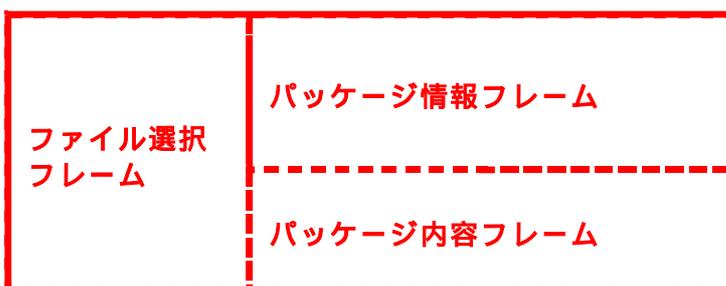


点線で囲んだ部分はプラグインで表示する。

[編集するパッケージ] タブを表示している場合



3.4.2. フレーム説明



名前	説明
ファイル選択フレーム	作業用OSのファイルシステムをツリー表示し、パッケージに含めるファイル、ディレクトリを選択する。
パッケージ情報フレーム	作成するパッケージの情報を設定する。 なお、本フレームはパッケージプラグインが表示する。
パッケージ内容フレーム	作成するパッケージに含めるファイル、ディレクトリを一覧表示する。

3.4.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	作業用OSファイル	ツリービュー (ツリー)	ALT+W	作業用OSのファイルシステムをツリー表示する。 表示はディレクトリをノード、ファイルをリーフとし、頂点を/ファイルシステムとする。 ノード内のファイルの状態は各ノードを開くたびに更新するものとし、初期表示時の全ノードの情報取得等を行わない。
2	追加	ボタン	ALT+A	ツリーで選択しているファイルを[パッケージ内容]リストに追加する(既に同一のパッケージがパッケージ内容リストに表示されている場合は追加しない)。
3	パッケージ形式	コンボボックス	ALT+P	作成するパッケージの形式を指定する。 指定した内容に対応するプラグインの「パッケージ作成画面表示」処理が呼び出され、4~9の部品のエリアが書き換わる。
4	パッケージ情報			[パッケージ形式]コンボボックスで選択されたパッケージプラグインがパッケージ固有の情報を表示する。 パッケージプラグインが表示する部品の詳細については「プラグイン」の章を参照のこと。
5	パッケージ内容	ツリービュー (リスト)	ALT+R	作成するパッケージでインストールされるファイルの一覧を表示する。
6	パッケージ化	ボタン	ALT+P	パッケージ情報フレーム、および、[パッケージ内容]リストの情報を元にパッケージを作成する。 作成したパッケージは「パッケージインストール/アンインストール」画面の[インストール/アンインストールパッケージ]リストにインストール対象パッケージとして追加する。
7	削除	ボタン	ALT+D	[パッケージ内容]リストで選択している行を削除する。
8	パッケージの読み込み	ツリービュー (リスト)	ALT+A	パッケージを作成する際にベースとするパッケージを選択するためにパッケージの一覧を表示する。 表示する内容は[パッケージ形式]コンボボックスで選択しているパッケージ形式のプラグインがリマスタリング対象OSでインストール可能なパッケージのリストと各パッケージプラグインのオプション設定画面で設定したローカルパッケージ検索ディレクトリのパッケージ一覧を合わせて表示する。 【備考】単一選択のみ可能
9	編集	ボタン	ALT+E	[編集するパッケージ]リストで選択しているパッケージを読み込み、パッケージの内容をパッケージ情報フレーム、パッケージ内容フレームに反映する。

3.4.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> OS プラグインの[パッケージ形式取得]処理を呼び出し、リマスタリング対象 OS で使用するパッケージの形式を取得する。 で取得したパッケージのプラグインの「パッケージ情報設定画面表示」処理を呼び出し、パッケージ情報フレーム内の画面を表示する。
2	追加ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> ツリーで選択しているファイル/ディレクトリを[パッケージ内容]リストに追加する（重複する場合は追加しない）。
3	編集ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [編集するパッケージ]リストで選択しているパッケージに対応するパッケージプラグインのパッケージ読み込み処理を呼び出す。 パッケージプラグインはパッケージファイルを読み込み、パッケージの内容を右ペインの上下各フレームに設定する。
4	パッケージ化ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [パッケージ内容]リスト内のファイル/ディレクトリの一覧をパッケージプラグインの「パッケージ作成」処理に渡してパッケージを作成する。
5	削除ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [パッケージ内容]リストで選択されているファイル/ディレクトリを[パッケージ内容]リストから削除する。
6	パッケージの読み込みボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [編集するパッケージ]リストで選択されているパッケージの名前、バージョンをパッケージプラグインの「パッケージ読み込み」処理に渡してパッケージを読み込む。 パッケージプラグインの「パッケージ読み込み」処理ではオプション設定のローカルパッケージディレクトリを検索して見つかったパッケージファイルの読み込みを行い、パッケージ作成画面、および、詳細設定ダイアログの各部品に反映する。 パッケージファイルがローカルパッケージディレクトリ内がない場合、ネットワーク上からダウンロードして読み込みを行う。

3.4.5. メニュー処理

- 作業用 OS ファイルツリーのポップアップメニュー

追加(A)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	追加	A	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
追加	ツリー内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は追加ボタンのクリック時と同じ。

- 編集するパッケージリストのポップアップメニュー

パッケージの読み込み(A)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	パッケージの読み込み	A	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
パッケージの読み込み	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作はパッケージの読み込みボタンのクリック時と同じ。

・ パッケージ内容リストのポップアップメニュー

削除(D)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は削除ボタンのクリック時と同じ。

3.4.6. ダイアログ

なし。

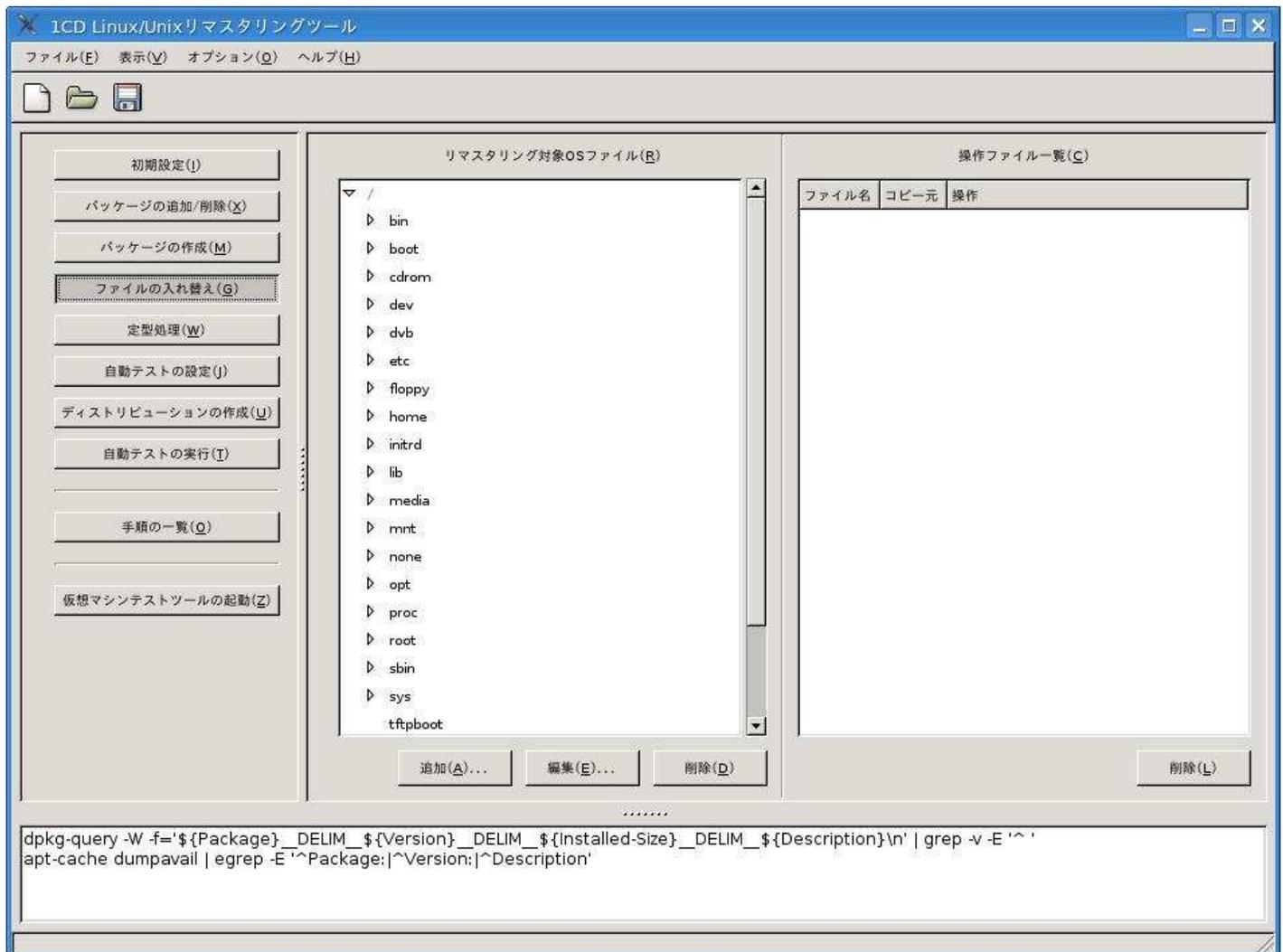
パッケージプラグインで表示するパッケージ情報フレームからポップアップするウインドウについては「プラグイン」の章を参照のこと。

3.5. ファイル操作画面

サイドバーの [ファイルの入れ替えボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではリマスタリング対象OS内のファイルの入れ替え（追加、編集、削除）を行う。

本画面を使用して各種設定ファイルの編集や壁紙ファイルの置き換えを行うことを目的とする。



3.5.1. 画面レイアウト

3.5.2. フレーム説明



名前	説明
ファイル選択フレーム	リマスタリング対象OSのファイルシステムをツリー表示し、操作対象のファイル、ディレクトリを選択する。
操作対象ファイル表示フレーム	ファイルの入れ替えを行うファイル、ディレクトリの一覧を表示する。

3.5.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	リマスタリング対象OSファイル	ツリービュー (ツリー)	ALT+R	リマスタリング対象OSのファイルシステムをツリー表示する。 表示はディレクトリをノード、ファイルをリーフとし、頂点を/ファイルシステムとする。 ノード内のファイルの状態は各ノードを開くたびに更新するものとし、初期表示時の全ノードの情報取得等を行わない。
2	追加	ボタン	ALT+A	作業用OSのファイルを選択するための「追加ファイル選択」ダイアログを開き、ダイアログで選択したファイルを[操作ファイル一覧]リストに追加する(既に同一のパッケージがパッケージ内容リストに表示されている場合は追加しない)。 本ボタンで追加した項目は(ディストリビューション作成時に)作業用OSからリマスタリング対象OSにコピーされる。このときコピー先はツリーで選択しているディレクトリ配下にコピーされる(ツリーでファイルを選択している場合、ダイアログで選択したファイルが上書きコピーされる)。
3	編集	ボタン	ALT+E	ツリーで選択しているファイルをファイルタイプに該当するエディタプログラムを開き、編集作業を行う。 編集後は[操作ファイル一覧]リストに追加する(既に同一のパッケージがパッケージ内容リストに表示されている場合は追加しない)。
4	削除	ボタン	ALT+D	ツリーで選択しているファイルを[操作ファイル一覧]リストに追加する(既に同一のパッケージがパッケージ内容リストに表示されている場合は追加しない)。 本ボタンで追加した項目は(ディストリビューション作成時に)リマスタリング対象OSから削除される。
5	操作ファイル一覧	ツリービュー (リスト)	ALT+C	リマスタリング対象OSの操作対象ファイルの一覧を表示する。 一覧に表示する項目は「名前」(ファイル名)、コピー元(追加時はコピー元のファイル名、編集時は編集したファイルを保存した一時ファイル名、削除時は空欄となる)、「操作」(「追加」、「編集」、「削除」のいずれか)の3項目。 リストに追加された順に表示する。
6	削除	ボタン	ALT+L	[操作ファイル一覧]リストで選択している行を削除する。

3.5.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	追加ボタンのクリック	1 追加ファイル選択ダイアログを開き、ダイアログで選択したファイル/ディレクトリを[操作ファイル一覧]リストに「操作」=「追加」で追加する(重複する場合は追加しない)。
2	編集ボタンのクリック	1 ファイル編集ダイアログを開く。
3	削除ボタン(ファイル選択フレーム)のクリック	1 ツリーで選択しているファイルを[操作ファイル一覧]リストに「操作」=「削除」で追加する。
4	削除ボタン(操作対象ファイル表示フレーム)のクリック	1 [操作ファイル一覧]リストで選択されているファイル/ディレクトリを[操作ファイル一覧]リストから削除する。

3.5.5. メニュー処理

- リマスタリング対象 OS ファイルツリーのポップアップメニュー

追加(A)...	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
編集(E)...	追加	A	なし
削除(D)	編集	E	なし
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
追加	ツリーのファイル/ディレクトリが未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は追加ボタンのクリック時と同じ。
編集	ツリーのファイル/ディレクトリが未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は編集ボタンのクリック時と同じ。
削除	ツリーのファイル/ディレクトリが未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は削除ボタンのクリック時と同じ。

- 操作ファイル一覧リストのポップアップメニュー

削除(D)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は削除ボタン（操作対象ファイル表示フレーム）のクリック時と同じ。

3.5.6. ダイアログ

【追加ファイル選択ダイアログ】



作業用 OS からコピーするファイルとリマスタリング対象 OS でのコピー先を選択する。

追加ファイル選択ダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	作業用 OS からコピーするファイル	エントリ (エディットボックス)	ALT+V	作成する DVD メディアのボリュームラベルを設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	参照(作業用)	ボタン	ALT+B	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。
3	コピー先となるリマスタリング対象 OS のファイル	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	リマスタリング対象 OS の DVD イメージのファイル名を設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】ツリーで選択中のファイル 【入力チェック】未入力不可
4	参照(リマスタリング対象用)	ボタン	ALT+R	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。
5	キャンセル	ボタン	ALT+C	追加ファイル選択ダイアログを閉じる。 ダイアログ中に指定したファイルはリマスタリング手順には追加されない。
6	OK	ボタン	ALT+O	追加ファイル選択ダイアログを閉じる。 ダイアログ中に指定したファイルはリマスタリング手順に追加される。

追加ファイル選択ダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	参照(作業用)ボタンのクリック	1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 2 Ok ボタン以外でファイル選択ダイアログを終了した場合、以降の処理は実行しない。 3 ファイル選択ダイアログで設定したファイルを「作業用 OS からコピーするファイル」エントリに設定する。
2	参照(リマスタリング対象用)ボタンのクリック	1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 2 Ok ボタン以外でファイル選択ダイアログを終了した場合、以降の処理は実行しない。 2 ファイル選択ダイアログで設定したファイルを「コピー先となるリマスタリング対象 OS のファイル」エントリに設定する。。
3	キャンセルボタンのクリック	1 追加ファイル選択ダイアログを閉じる (リマスタリング手順の変更はなし)。
4	OK ボタンのクリック	1 ダイアログの部品説明にしたがって入力チェックを行う。入力チェックでエラーが発生した場合はエラーメッセージを表示して以降の処理は実行しない。 2 追加ファイル選択ダイアログで選択した[作業用 OS からコピーするファイル]をコピー元、[コピー先となるリマスタリング対象 OS のファイル]をコピー先としてリマスタリング手順に追加する。 3 追加ファイル選択ダイアログを閉じる。

【ファイル編集ダイアログ】



作業用 OS で編集するファイル（ツリーで選択中のファイル）を編集するアプリケーションを選択する。

ファイル編集ダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	編集に使用するアプリケーション	ツリービュー (リスト)		編集に使用するアプリケーションの一覧を表示する。一覧に表示するアプリケーションは選択したファイルの mime タイプに対応するアプリケーションを表示する。前回は[その他]ボタンで一覧表外のアプリケーションを選択した場合はそのときに選択したアプリケーションもリストに表示する。 【初期選択】前回選択したアプリケーション
2	OK	ボタン	ALT+O	選択したアプリケーションでファイル編集を行う。
3	キャンセル	ボタン	ALT+C	ファイル編集ダイアログを閉じる。 リマスタリング手順は変更されない。
4	その他	ボタン	ALT+T	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、編集に使用するアプリケーションのコマンドを選択する。

ファイル編集ダイアログのイベント処理

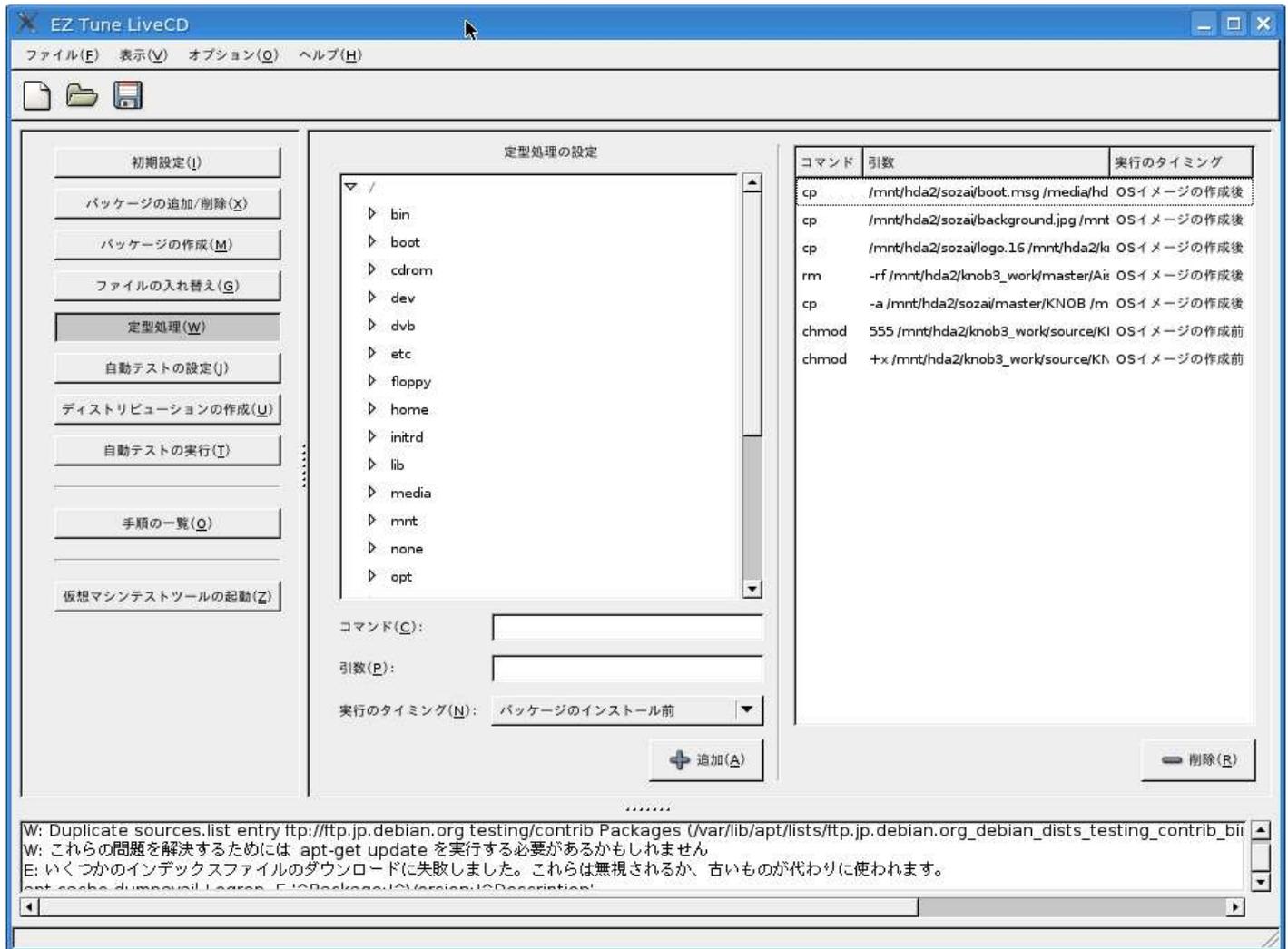
項番	イベント	処理内容
1	OK ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 ツリーで選択中のファイルを作業用ディレクトリにコピーする。 2 手順1でコピーしたファイル(コピー先)をリストで選択しているアプリケーションで開く。 3 リマスタリング手順にファイルの編集手順(コピー元: 手順1でコピーしたファイル、コピー先: ツリーで選択しているファイル)として追加する。 4 ファイル編集ダイアログを閉じる。
2	キャンセルボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイル編集ダイアログを閉じる(リマスタリング手順の変更はなし)。
3	その他ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 ツリーで選択中のファイルを作業用ディレクトリにコピーする。 2 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 3 Ok ボタン以外でファイル選択ダイアログを終了した場合、以降の処理は実行しない。 4 手順1でコピーしたファイル(コピー先)をファイル選択ダイアログで選択したファイルの引数としてコマンドを実行する。 5 手順1でコピーしたファイル(コピー先)

3.6. 定型処理設定画面

サイドバーの [定型処理] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではリマスタリング作業時に実行する定型処理（コマンド）の設定を行う。

3.6.1. 画面レイアウト



3.6.2. フレーム説明



名前	説明
定型処理設定フレーム	リマスタリング時に実行する定型処理を設定するために " 作業用 OS のファイルシステムツリーを表示し、実行対象のファイル、引数を設定する。
定型処理一覧表示フレーム	設定済みの定型処理の一覧を表示する。

3.6.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	作業用 OS ファイル	ツリービュー (ツリー)		作業用 OS のファイルシステムをツリー表示する。表示はディレクトリをノード、ファイルをリーフとし、頂点を / ファイルシステムとする。ノード内のファイルの状態は各ノードを開くたびに更新するものとし、初期表示時の全ノードの情報取得等を行わない。
2	コマンド	エントリ (テキストボックス)	ALT+C	定型処理として実行するコマンド名を指定する。ツリー上のファイルを選択したときは自動的に選択中のファイルが絶対パスで表示されるが、本部品に手入力でも指定することもできる。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	パラメタ	エントリ (テキストボックス)	ALT+P	定型処理コマンドの起動パラメタを指定する。 【最大長】2048 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可
4	実行のタイミング	コンボボックス	ALT+N	定型処理コマンドを実行するタイミングを指定する。指定可能なタイミングは以下のとおり。 ・パッケージのインストール前 ・ファイルの入れ替え前 ・OS イメージの作成前 ・OS イメージの作成後
5	追加	ボタン	ALT+A	[コマンド]エントリ、[パラメタ]エントリ、[実行のタイミング]コンボボックスの内容を [定期処理一覧] リストに追加する。
6	定型処理一覧	ツリービュー (リスト)		設定された定型処理の一覧を表示する。表示する項目は「コマンド名」、「パラメタ」、「実行するタイミング」の 3 項目。
7	削除	ボタン	ALT+D	定型処理一覧リストで選択中の項目を削除する。

3.6.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	ツリー上のファイル (ディレクトリ) クリック時	1 選択しているファイル (ディレクトリ) の絶対パスを [コマンド] エントリに設定する。
2	追加ボタンクリック時	1 [コマンド]、[パラメタ]、[期待する復帰値] の内容を [テスト一覧] リストに追加する。既に同一のテスト項目が存在している場合は追加しない。
3	削除ボタンクリック時	1 [テスト一覧] リストで選択中のテスト項目をリストから削除する。

3.6.5. メニュー処理

- ・ 定型処理一覧リストのポップアップメニュー

削除(D)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する（選択不可）。 選択時の動作は削除ボタン（定型処理一覧表示フレーム）のクリック時と同じ。

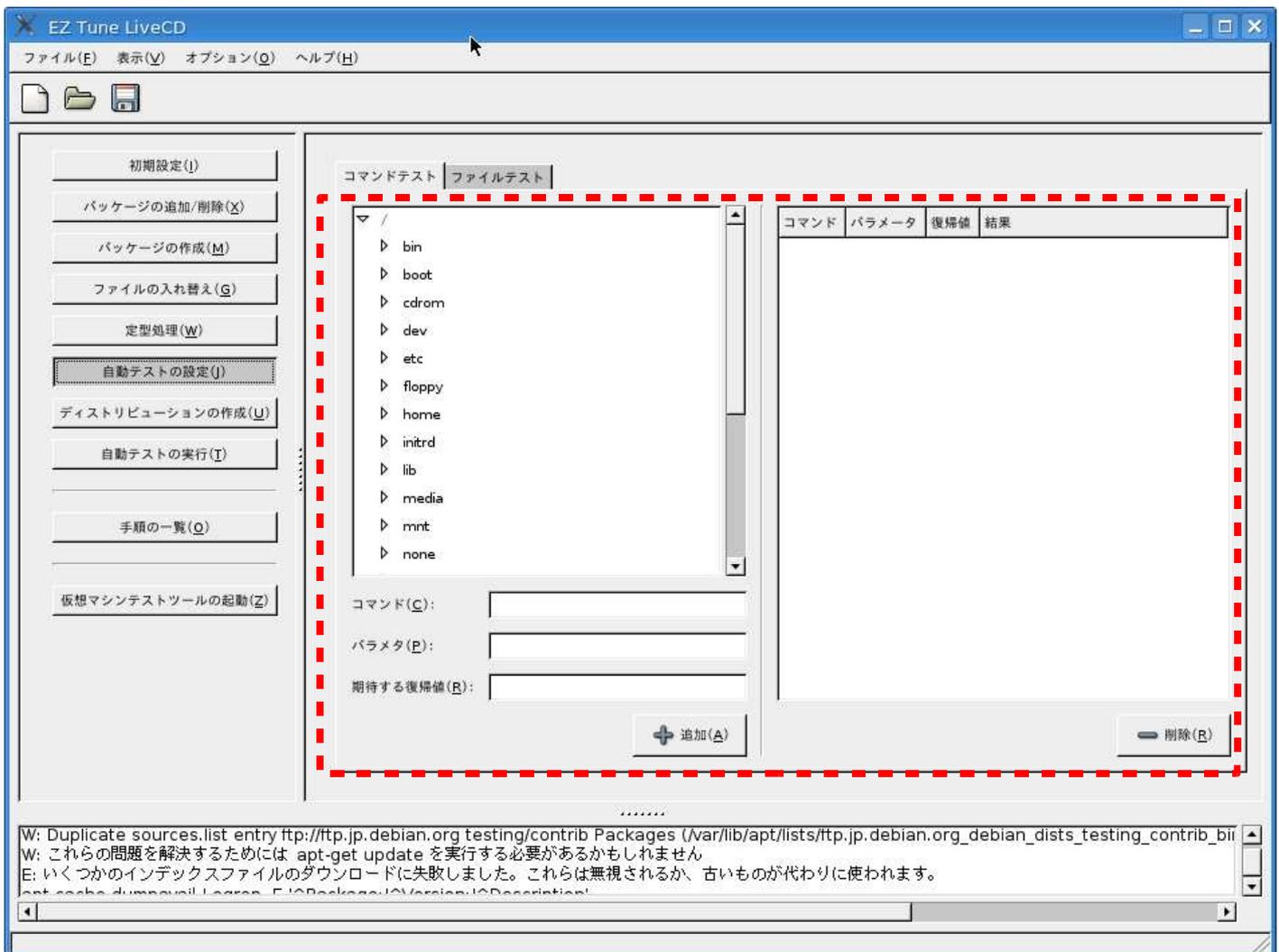
3.6.6. ダイアログ
なし。

3.7. 自動テスト設定画面

サイドバーの [自動テストの設定] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではテストプラグイン毎にタブに表示し、テスト項目の設定を行う。本機能によりディストリビューションに組み込むパッケージやファイルの欠如（または過多）を検出することを目的とする。

3.7.1. 画面レイアウト



破線で囲んだ部分はテストプラグインで表示する範囲である。

初版で提供するテストプラグインは「ファイルテスト」、「コマンドテスト」プラグインである。各プラグインの詳細については「プラグイン」の章を参照のこと。

3.7.2. フレーム説明

テスト設定フレーム

名前	説明
テスト設定フレーム	テストプラグイン毎にタブページを割り当て、プラグイン毎のテスト項目の設定を行う。

3.7.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	テスト設定	ノートブック (タブ)		テストプラグイン毎にタブページを設定する。 各タブの内容はテストプラグインが表示する。

3.7.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> 1 全テストプラグインからテスト名称を取得して各タブの名称に設定する。 2 タブページ毎にプラグインの「初期化」処理を呼び出し、テスト項目の設定画面を表示する。

3.7.5. メニュー処理

なし

3.7.6. ダイアログ

なし

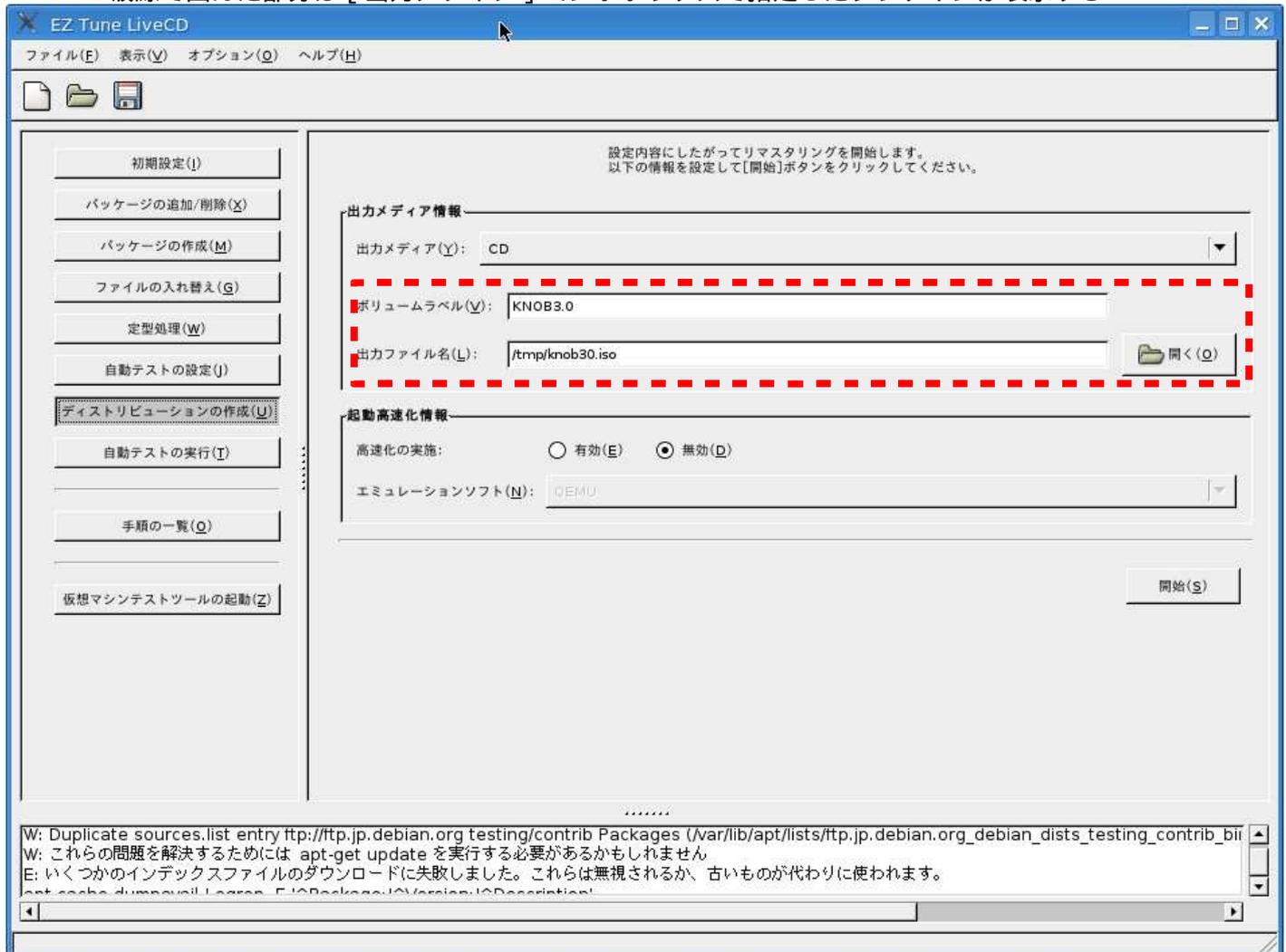
3.8. ディストリビューション作成画面

サイドバーの [ディストリビューションの作成] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではこれまでに設定した内容でディストリビューションの作成（リマスタリング）を行うことを目的とする。

画面レイアウト

破線で囲んだ部分は [出力メディア] コンボボックスで指定したプラグインが表示する



3.8.1. フレーム説明

出力メディア設定フレーム

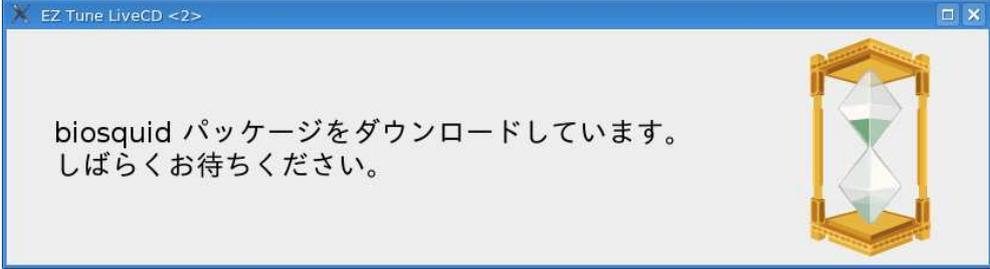
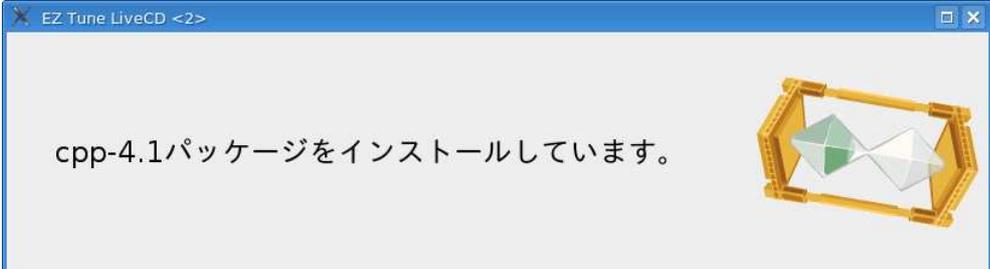
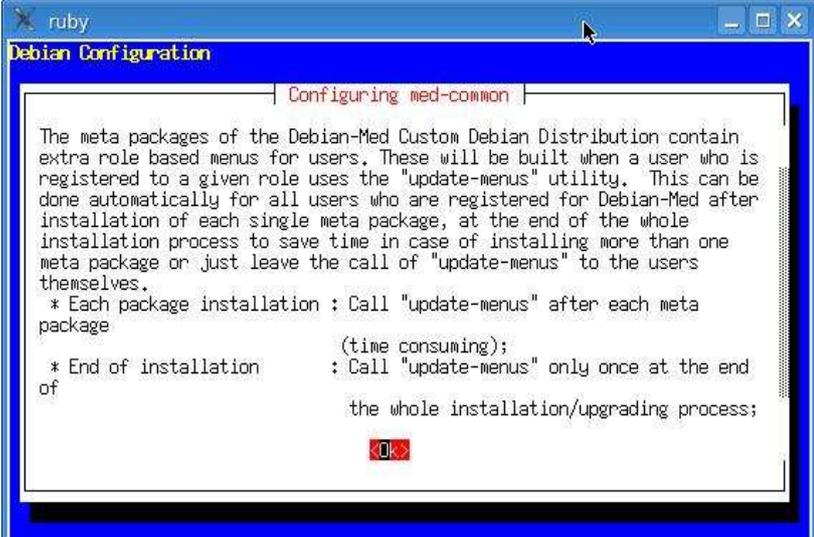
名前	説明
出力メディア設定フレーム	リマスタリング結果を出力するOSイメージの設定を行う。

3.8.2. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	出力メディア	コンボボックス	ALT+Y	リマスタリング対象OSのOSイメージ化するメディアを選択する。 メディアプラグインから取得される名称を選択リストとする。初期状態では先頭項目を選択状態にしておく。
2	メディア情報			[出力メディア]コンボボックスで選択されたプラグインが作成するメディアの情報を設定させるために表示する領域。
3	起動高速化可否	ラジオボタン	ALT+E(有効) ALT+D(無効)	起動高速化の適用の可否を選択する。 起動高速化をサポートしていないディストリビューションでは[有効]は常に無効(グレー)状態になり、[無効]から変更できない。
4	エミュレーションソフト	コンボボックス	ALT+N	起動高速化適用時に起動時のプロファイリングを行う際に使用するエミュレーションソフトを指定する。 エミュレータプラグインから取得される名称を選択リストとする。初期状態では先頭項目を選択状態にしておく。
5	開始	ボタン	ALT+S	設定内容にしたがってディストリビューションのリマスタリングを開始する。

3.8.3. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 全メディアプラグインからメディア名称を取得して出力メディアコンボボックスに設定する。 2 全エミュレータプラグインからエミュレータ名称を取得してエミュレーションソフトコンボボックスに設定する。
2	詳細ボタンのクリック	1 [エミュレーションソフト]コンボボックスで選択されているエミュレータの「詳細設定」処理を呼びだし、詳細設定画面を表示する。

<p>3 開始ボタンのクリック</p>	<p>1 以下のダイアログのように実行しているリマスタリング作業に対応する処理待ち画面を表示する。</p>
	 <p>biosquid パッケージをダウンロードしています。 しばらくお待ちください。</p>  <p>cpp-4.1パッケージをインストールしています。</p>
	<p>2 パッケージのインストール/アンインストールを実施する(パッケージプラグインのインストール、アンインストール処理の呼び出し)。インストールコマンドはオプションダイアログで設定したターミナルコマンドを起動し、その配下で実行する(以下のイメージを参照)。</p>  <pre> Debian Configuration Configuring med-common The meta packages of the Debian-Med Custom Debian Distribution contain extra role based menus for users. These will be built when a user who is registered to a given role uses the "update-menus" utility. This can be done automatically for all users who are registered for Debian-Med after installation of each single meta package, at the end of the whole installation process to save time in case of installing more than one meta package or just leave the call of "update-menus" to the users themselves. * Each package installation : Call "update-menus" after each meta package (time consuming); * End of installation : Call "update-menus" only once at the end of the whole installation/upgrading process; [Ok] </pre>
	<p>3 ファイル操作の手順に従ってファイルの入れ替えを行う。 4 OS イメージプラグインの「OS イメージ作成」処理を呼び出し、OS イメージを作成する。 5 メディアプラグインの「メディア作成」処理を呼び出し、メディア形式に従ったイメージファイルを作成する。</p>

3.8.4. メニュー処理

なし

3.8.5. ダイアログ

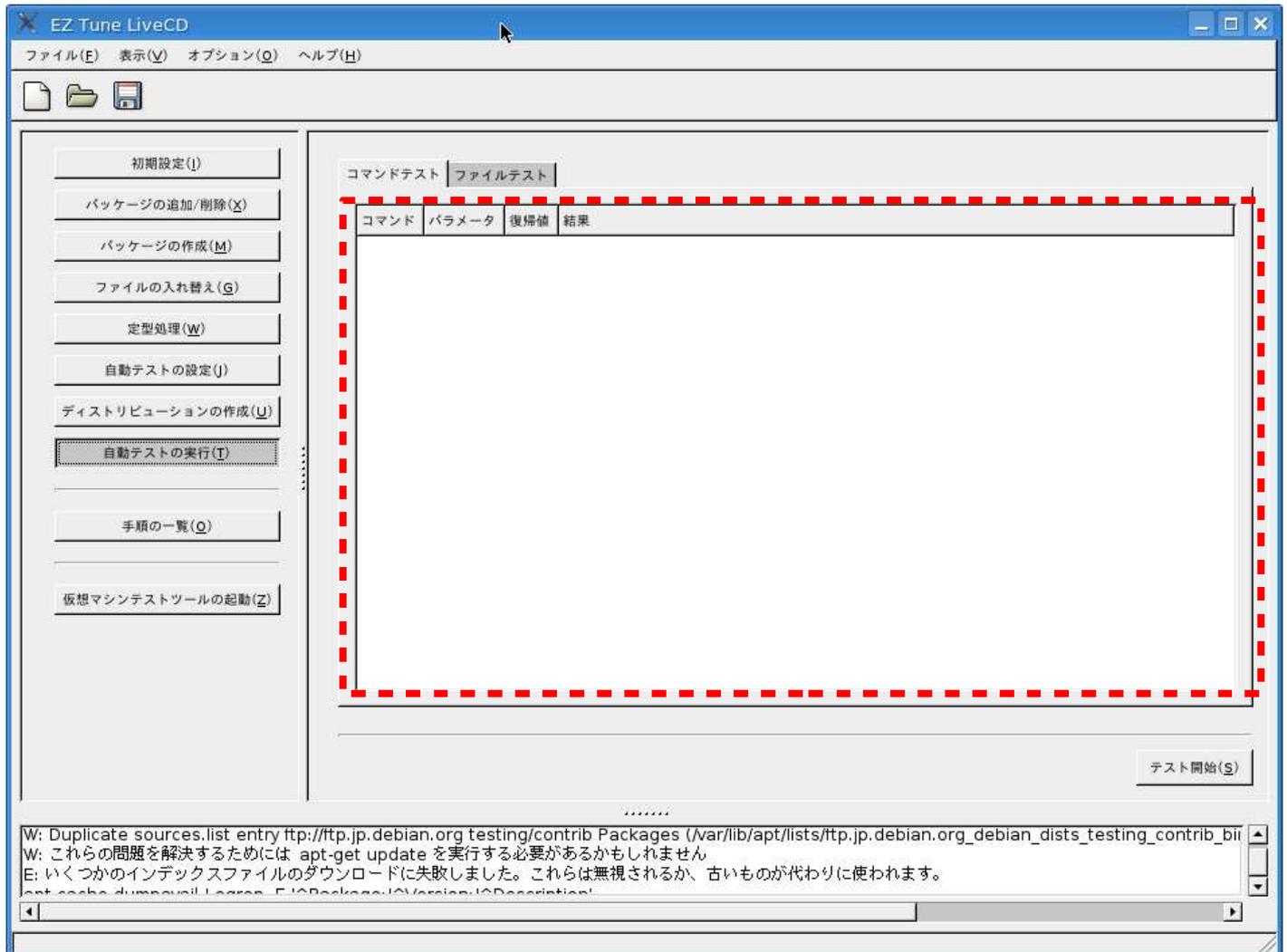
なし

3.9. 自動テスト実行画面

サイドバーの [自動テストの実行] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面では「自動テストの設定」画面で設定した自動テストの実行およびその結果を表示する。本機能によりディストリビューションに組み込むパッケージやファイルの欠如（または過多）を検出することを目的とする。

3.9.1. 画面レイアウト



破線で囲んだ部分はテストプラグインで表示する範囲である。

初版で提供するテストプラグインは「ファイルテスト」、「コマンドテスト」プラグインである。各プラグインの詳細については「プラグイン」の章を参照のこと。

3.9.2. フレーム説明

テスト結果表示フレーム

名前	説明
テスト結果表示フレーム	テストプラグイン毎にタブページを割り当て、プラグイン毎のテスト項目およびそのテスト結果の表示を行う。

3.9.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	テスト設定	ノートブック (タブ)		テストプラグイン毎にタブページを設定する。 各タブの内容はテストプラグインが表示する。
2	テスト開始	ボタン	ALT+S	テストを開始する。

3.9.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> 1 全テストプラグインからテスト名称を取得して各タブの名称に設定する。 2 タブページ毎にプラグインの「初期化」処理を呼び出し、テスト項目の設定画面を表示する。
2	テスト開始ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 各タブページのテストプラグインの「テスト実行」処理を呼び出し、テストを行う。 2 全タブを通じて1件以上のNG項目が存在する場合、メッセージボックスで以下のメッセージを表示する。 「テスト結果にNG項目が存在します。詳細は各タブに表示されているテスト結果を参照してください。」 全項目がOKの場合、以下のメッセージボックスを表示する。 「すべてのテストは正常に完了しました。」

3.9.5. メニュー処理

なし

3.9.6. ダイアログ

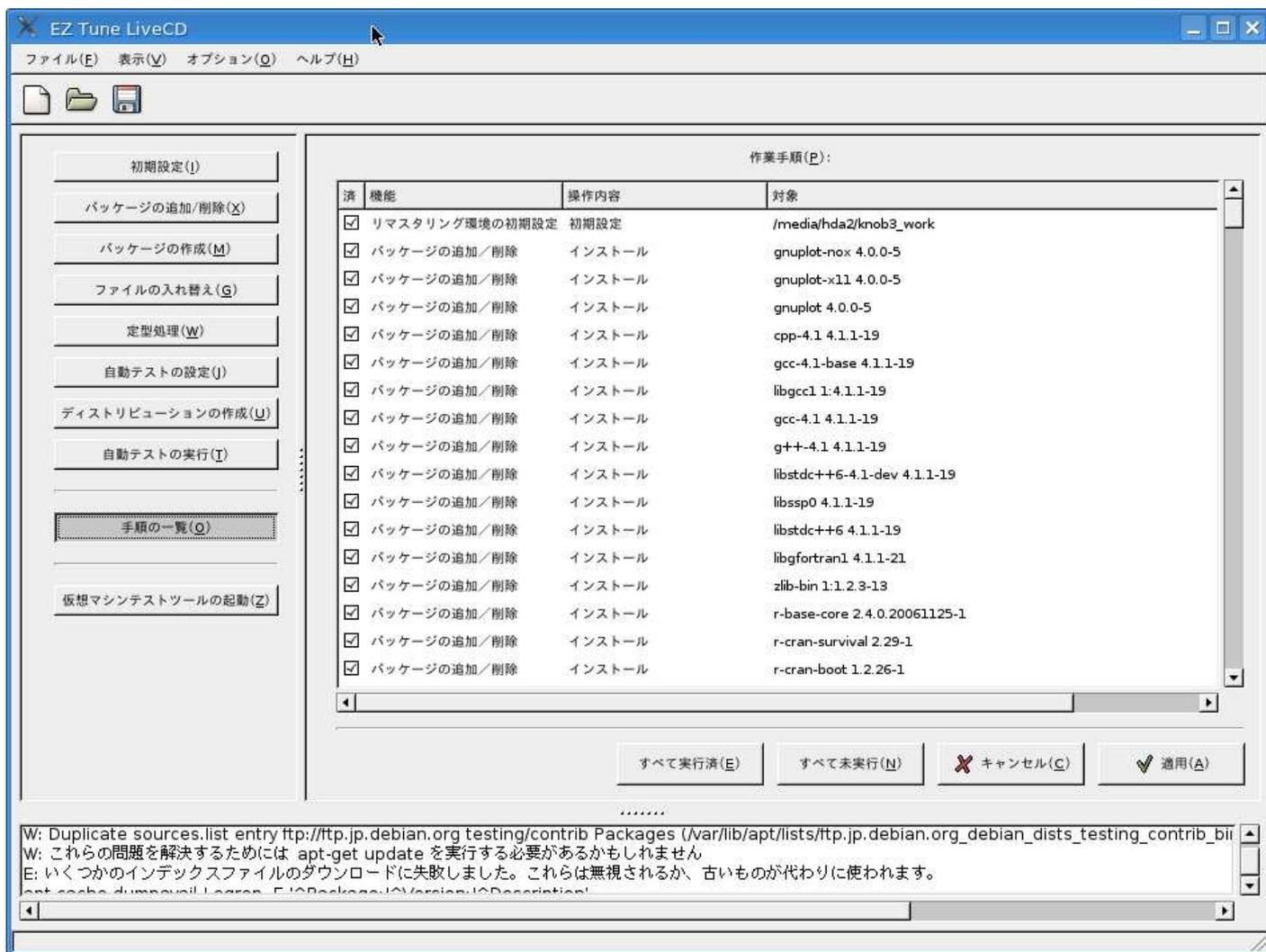
なし

3.10. 操作手順編集画面

サイドバーの [手順の一覧] ボタンをクリックしたときに表示する。

本画面ではリマスタリング手順の状態（実行済み，または未実行）を表示し、実行済み 未実行の状態切り替えを行うことができる。

3.10.1. 画面レイアウト



3.10.2. フレーム説明

手順一覧フレーム

名前	説明
手順一覧フレーム	リマスタリング手順の一覧を表示する。

3.10.3. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	操作手順	ツリービュー (リスト)	ALT+P	リマスタリング作業の過程で実行した手順の一覧を表示する。 一覧に表示する項目は「実行済」、「機能」、「作業内容」、「対象」の4項目。 「実行済」はすでに実行済みの手順である場合にチェックボックスをチェック状態に表示する。 「機能」は次の項目の「作業内容」を設定した機能(サイドバーのボタンをクリックして表示される画面に対応する表示する。 「作業内容」はリマスタリング作業の手順名を表示する。 「対象」は作業内容で操作する対象を表示する。
2	すべて実行済み	ボタン	ALT+E	すべての操作手順を実行済み状態にする(すべてのチェックボックスをチェック状態にする)
3	すべて未実行	ボタン	ALT+N	すべての操作手順を未実行状態にする(すべてのチェックボックスを未チェック状態にする)
4	キャンセル	ボタン	ALT+C	手順の実行状態の変更を取り消し、本画面を開いたときの状態(適用ボタン押下後は適用ボタン押下時の状態)に戻る。
5	適用	ボタン	ALT+A	手順の変更を適用する。

3.10.4. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 操作手順の一覧を機能毎にリストに表示する。
2	すべて実行済みボタンのクリック	1 リスト中のすべてのチェックボックスをチェック状態に変更する。
3	すべて未実行ボタンのクリック	1 リスト中のすべてのチェックボックスを未チェック状態に変更する。
4	キャンセルボタンのクリック	1 手順の実行状態の変更を取り消し、本画面を開いたときの状態(適用ボタン押下後は適用ボタン押下時の状態)に戻る。
5	適用ボタンのクリック	1 手順の変更を適用する。これ以降は[キャンセル]ボタンをクリックすると、[適用]ボタン押下時の状態に戻る。

3.10.5. メニュー処理

なし

3.10.6. ダイアログ

なし

3.11. 仮想マシンテストツール

リマスタリングツールとは別のツールとして起動する。

本ツールではリマスタリングしたOSイメージをエミュレーションソフト環境下で起動して、手軽にOSイメージの動作の確認を行うことを目的とする。

3.11.1. 画面レイアウト



3.11.2. 起動方法

スーパーユーザになり、 rvmtool コマンドを実行する。

```
$ su
Password: xxxxx
# rvmtool [-v] [-h] [-f OSイメージファイル] [-e エミュレーションソフト]
```

本コマンドでサポートするオプションは以下の通り。

項番	オプション	説明
1	-f OSイメージファイル	OSイメージファイルを指定する。 本オプションを指定すると起動直後に[OSイメージ]エディットボックスに指定したファイル名が表示される。
2	-e エミュレータソフト	OSイメージを実行するエミュレータソフトを指定する。 本オプションを指定すると起動直後に[エミュレーションソフト]コンボボックスは指定したエミュレータソフトが選択された状態で表示される。
3	-h	コマンドの Usage を表示する。表示する内容は以下の通り。 Usage: rvmtool [options] -v : print version -h : print this help -f os_image_file : execute os_image_file as OS Image -e emulator : execute the emulator to Virtual machine software
4	-v	リマスタリングツールのバージョンを表示する。表示する内容は以下の通り。 EZ Tune LiveCD V1.0

3.11.3. フレーム説明

メインフレーム

名前	説明
メインフレーム	OS イメージとエミュレーションソフトを指定してエミュレータ下で OS イメージを実行する。

3.11.4. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	OS イメージ	エントリ (エディットボックス)	ALT+O	OS イメージファイル名を指定する。 【最大長】2048 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可、存在するファイル。
2	参照	ボタン	ALT+B	OS イメージ選択ダイアログを開き、OS イメージファイルを選択する。
3	エミュレーションソフト	コンボボックス	ALT+M	OS イメージを実行するエミュレーションソフトを指定する。表示する項目は全エミュレータプラグインである。初期表示時はコンボボックスの先頭項目を選択状態にしておく。
4	詳細	ボタン	ALT+D	エミュレーションソフトの詳細オプションを指定するためのダイアログを指定する。表示はコンボボックスで選択しているエミュレータプラグインが行う。
5	終了	ボタン	ALT+Q	仮想マシンテストツールを終了する。
6	実行	ボタン	ALT+E	設定された条件でエミュレータソフト下で OS イメージを起動する。

3.11.5. イベント処理

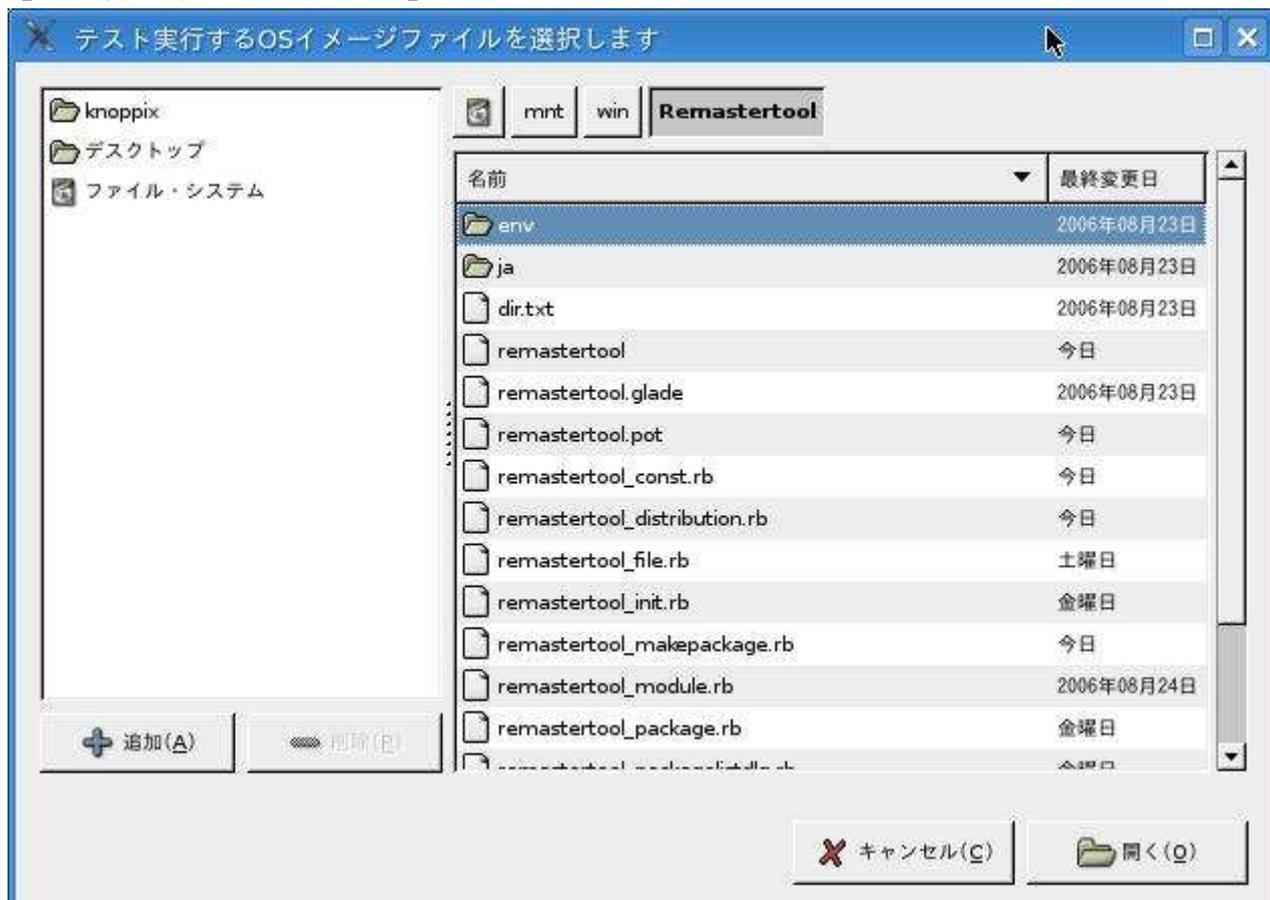
項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 全エミュレータプラグインをコンボボックスに設定し、先頭項目を選択状態にする。
2	参照ボタンのクリック	1 OS イメージ選択ダイアログをモーダルダイアログとして開く。 2 ダイアログが[開く]ボタンのクリックで終了した場合、選択したファイルを [OS イメージ]エディットボックスに設定する。
3	詳細ボタンのクリック	1 コンボボックスで選択しているエミュレータプラグインの「オプションダイアログ表示」処理を呼び出し、オプション設定画面を開く。
4	終了ボタンのクリック	1 本ツールを終了する。
5	実行ボタンのクリック	1 コンボボックスで選択しているエミュレータプラグインの「起動」処理を呼び出し、エミュレータソフトを起動する。

3.11.6. メニュー処理

なし

3.11.7. ダイアログ

【 OS イメージ選択ダイアログ】



[参照] ボタンをクリックすると表示される。このダイアログではリマスタリングした結果 (OS イメージ) のファイルを選択する。[開く] ボタンをクリックしてダイアログを終了させるとメイン画面の [OS イメージ] エディットボックスに反映される (Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログ (オープンモード))。

3.12. パッケージ作成ツール

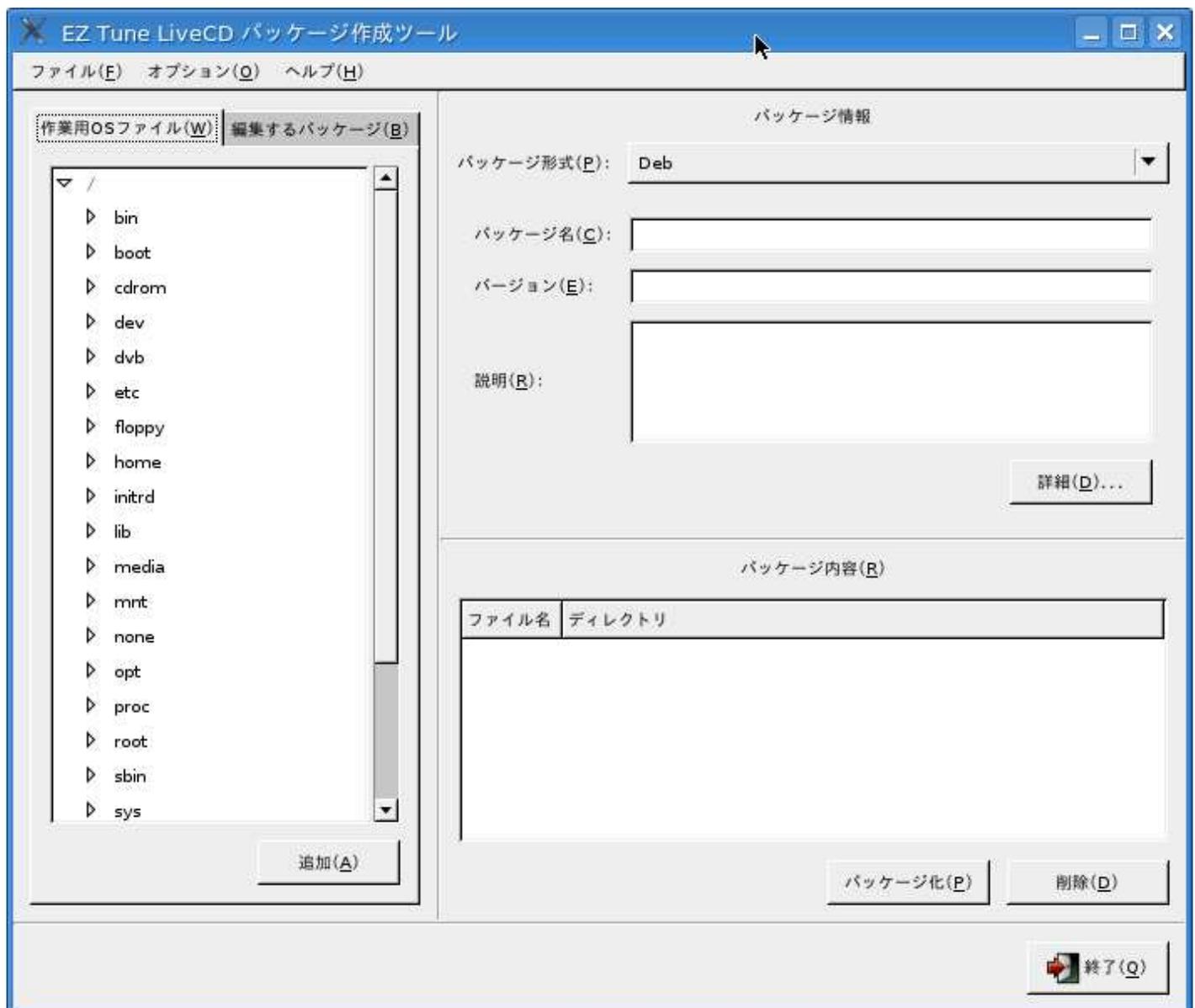
リマスタリングツールとは別のツールとして起動する。

機能自体はリマスタリングツールのパッケージ作成画面と同等である。

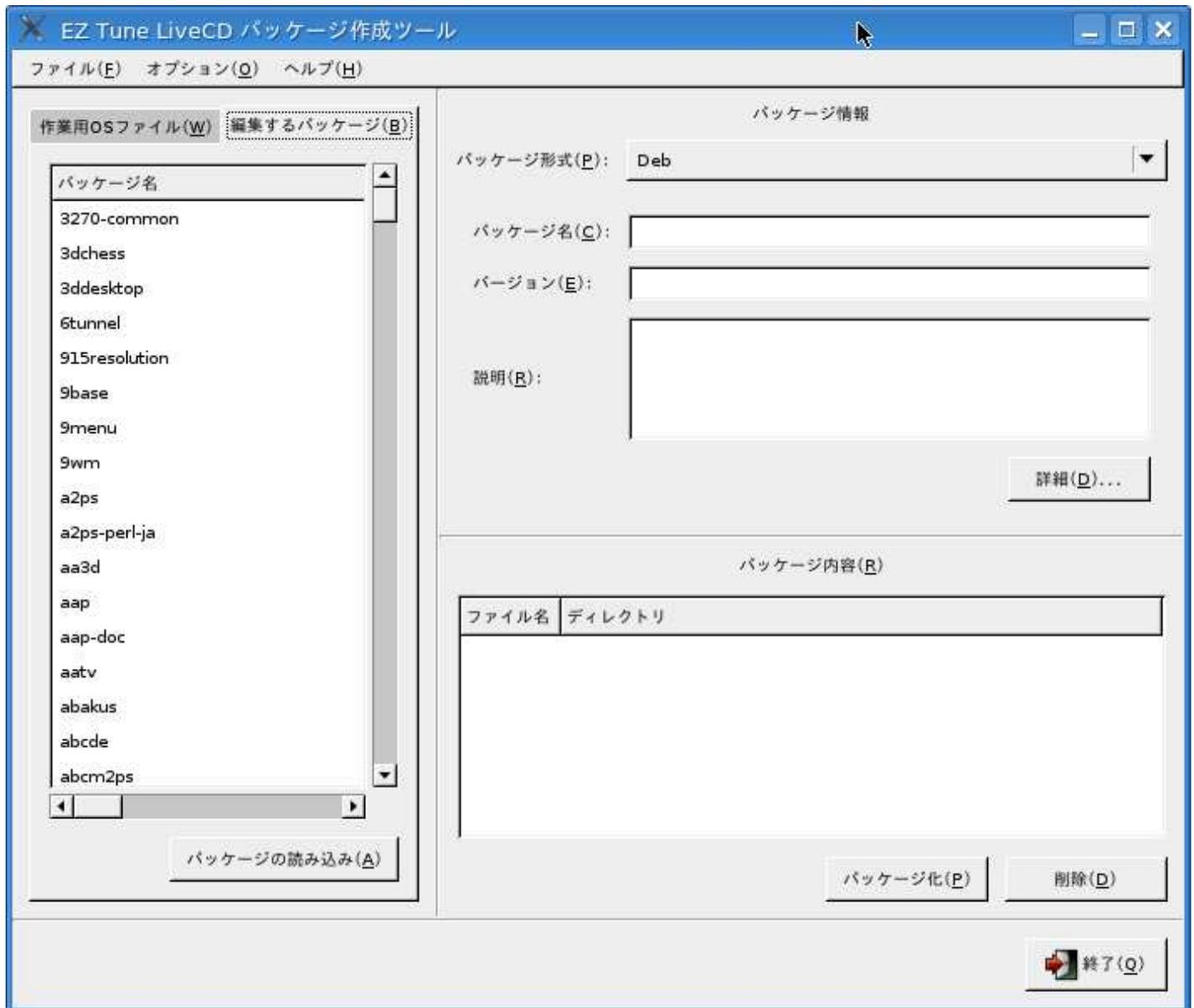
リマスタリングツール外でのパッケージ作成を容易とすることを目的とする。

3.12.1. 画面レイアウト

[作業用 OS ファイル] タブを表示している場合



[編集するパッケージ] タブを表示している場合



3.12.2. 起動方法

スーパーユーザになり、mkpkgtool コマンドを実行する。

```
$ su  
Password: xxxxx  
# mkpkgtool [-v] [-h]
```

本コマンドでサポートするオプションは以下の通り。

項番	オプション	説明
1	-h	コマンドの Usage を表示する。表示する内容は以下の通り。

		Usage: mkpkgtool [-v] [-h] -v : print version -h : print this help
2	-v	リマスタリングツールのバージョンを表示する。表示する内容は以下の通り。 EZ Tune LiveCD V1.0

3.12.3. フレーム説明



名前	説明
メインフレーム	リマスタリングツールのパッケージ作成画面の右フレームの内容を表示する。

3.12.4. 部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	終了	ボタン	ALT+Q	パッケージ作成ツールを終了する。

上記以外の部品説明についてはリマスタリングツールの「パッケージ作成」画面を参照のこと。

3.12.5. イベント処理

項番	イベント	処理内容
1	終了ボタンのクリック	1 メッセージダイアログで「パッケージ作成ツールを終了しますか？」を表示し、流量の可否を問い合わせる。 2 処理1で[OK]以外がクリックされた場合、以降の処理は実行しない。 3 本ツールを終了する。

上記以外のイベント処理についてはリマスタリングツールの「パッケージ作成」画面を参照のこと。

3.12.6. メニュー処理

リマスタリングツールの「パッケージ作成」画面を参照のこと。

3.12.7. ダイアログ

リマスタリングツールの「パッケージ作成」画面を参照のこと。

4. ファイル構造

4.1. リマスタリング手順ファイル

ファイル：リマスタリング手順ファイル

例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<RemasteringTool>
  <InitInfo>
    <OS>
      <name>KNOPPIX</name>
      <version>5.0.1</version>
    </OS>
    <Directory>
      <media>/media/cdrom</media>
      <work>/home/omori/work4</work>
    </Directory>
  </InitInfo>
  <PackageInfo>
    <Package command='apt-get --force-yes -q=2 install zsync=0.5-1' name='zsync'
version='0.5-1' operation='Install' exec='true' />
    <Package command='apt-get --force-yes -q=2 install zsh30-static=3.0.8-14'
name='zsh30-static' version='3.0.8-14' operation='Install' exec='true' />
    <Package command="" name='zsh30' version='3.0.8-14' operation='Install' exec='true' />
  </PackageInfo>
  <FileInfo>
    <File name='/etc/aliases' operation='edit'
source='/home/omori/work4/editwork/etc/aliases' exec='true' />
    <File name='/etc/anacrontab' operation='edit'
source='/home/omori/work4/editwork/etc/anacrontab' exec='true' />
    <File name='/etc/anthy' operation='append' source='---' exec='false' />
  </FileInfo>
  <DistInfo>
    <Image exec='false' />
    <Media exec='false'>CD</Media>
    <Accel exec='false'>true</Accel>
    <Emulator>QEMU</Emulator>
  </DistInfo>
  <PluginInfo name='CD'>
    <volume_label>sample</volume_label>
    <output_file>/tmp/sample.iso</output_file>
  </PluginInfo>
  <PluginInfo name='USB'>
    <device>/dev/sda1</device>
  </PluginInfo>
  <PluginInfo name='DVD'>
    <volume_label></volume_label>
    <output_file></output_file>
  </PluginInfo>

```

タイプ：XML（UTF - 8）

リマスタリング手順を記述したXMLファイルである。手順とパラメータをセットにし、本ツールで読み込みおよび書き込みを可能とする。

/要素 @属性	説明	データ内容
/RemasteringTool		
/InitInfo	初期設定情報	
/OS	OS情報	
/name	OS名	KNOPPIX
/version	OSバージョン	5.0.1
/Directory	ディレクトリ情報	
/media	メディアディレクトリ	/media/cdrom
/work	作業用ディレクトリ	/home/omori/work4
/PackageInfo	パッケージ操作情報	
/Package	パッケージ情報	
@command	パッケージインストールコマンド	apt-get --force-yes -q=2 install zsync=0.5-1
@name	パッケージ名	zsync
@version	バージョン	0.5-1
@operation	操作	Install: インストール、Uninstall: アンインストール
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/FileInfo	ファイル操作情報	
/File	ファイル追加操作	
@name	操作対象ファイルのリマスタリングOS上での絶対パス	/etc/aliases
@operation	操作内容	append: 追加、edit: 編集、delete: 削除
@source	リマスタリング対象OSにコピーするファイル	追加、編集操作のみ
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/FixedProcInfo	定型処理情報	
/fixProcess	定型処理	
@name	定型処理で実行するコマンド名	Cp
@param	定型処理コマンドのパラメタ	/etc/hosts /home/work/xxx
@timing	定型処理を実行するタイミング	
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/DistInfo	ディストリビューション作成情報	
/Image	イメージ作成情報	
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/Media	出力対象のメディア	メディアプラグイン名
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/Accel	起動高速化適用有無	TRUE: 適用する、FLASE: 適用しない
@exec	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
/Emulator	エミュレーションソフト	エミュレータプラグイン名

リマスタリング手順ファイル構成 (続き)

/要素 @属性	説明	データ内容
/PluginInfo	プラグイン情報 (CDプラグインの場合)	
@name	プラグイン名	CD
/volume_label	ボリュームラベル	KNOB
/output_file	メディアイメージ出力ファイル名	/tmp/sample.iso
/PluginInfo	プラグイン情報 (USBプラグインの場合)	
@name	プラグイン名	USB
/device	USBデバイス	/dev/sda1
/PluginInfo	プラグイン情報 (DVDプラグインの場合)	
@name	プラグイン名	DVD
/volume_label	ボリュームラベル	
/output_file	メディアイメージ出力ファイル名	
/PluginInfo	プラグイン情報 (コマンドテストプラグインの場合)	
@name	プラグイン名	Command_Test
/test	テスト情報	
/command	テスト対象コマンド	/bin/arch
@effective	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
@result	テスト結果	OK: テストOK, NG: テストNG
@check	期待する復帰値	0
@parameter	テスト対象コマンドの実行引数	
/PluginInfo	プラグイン情報 (ファイルテストプラグインの場合)	
@name	プラグイン名	File_Test
/test	テスト情報	
/file	テスト対象ファイル	/bin/bash
@effective	実行	TRUE: 実行済み、FLASE: 未実行
@result	テスト結果	OK: テストOK, NG: テストNG
@check	チェック内容	exist: 存在チェック、not exist: 不在チェック
@Type	ファイル種別	file: ファイル、directory: ディレクトリ

上記の要素「InitInfo」、「PackageInfo」、「FileInfo」、「FixedProcInfo」、「DistInfo」はリマスタリング要素「Plugin」はプラグイン固有の情報を各プラグインが作成する。

5. プラグイン

プラグイン機能はリマスタリングツールの機能拡張を容易に行うための仕組みを提供する。

プラグインは以下にあげる特定の型を持ち、それぞれが各OS、各メディア等に固有の処理を定義する。

- ・ OS プラグイン
- ・ メディアプラグイン
- ・ エクスポートプラグイン
- ・ パッケージプラグイン
- ・ エミュレータプラグイン
- ・ テストプラグイン

本章では初版で提供するプラグインの仕様について明記する。

リマスタリングツールの初版では以下のプラグインを提供する。

項番	プラグインの型	プラグイン	説明
1	OS	KNOPPIX5.0_ja プラグイン	日本語版 KNOPPIX5.0 系 OS 用のプラグイン
2	メディア	CD プラグイン	CD メディアにリマスタリングするためのプラグイン
3		DVD プラグイン	DVD メディアにリマスタリングするためのプラグイン
4		USB プラグイン	USB メモリにリマスタリングするためのプラグイン
5	エクスポート	XML プラグイン	リマスタリング手順ファイルを XML 形式で保存するためのプラグイン
6			
7		HTML プラグイン	リマスタリング手順ファイルを HTML 形式で保存するためのプラグイン
		Wiki プラグイン	リマスタリング手順ファイルを Wiki の形式で保存するためのプラグイン
8	パッケージ	Deb プラグイン	Deb 形式のパッケージを操作するためのプラグイン
9		RPM プラグイン	RPM 形式のパッケージを操作するためのプラグイン
10	エミュレータ	QEMU プラグイン	QEMU 配下でリマスタリングした OS イメージを起動するためのプラグイン
11	テスト	ファイルテストプラグイン	リマスタリングした OS のファイルの有無チェックを実施するためのプラグイン
12		コマンドテストプラグイン	非対話型のコマンドを実行してコマンドの復帰値のチェックを実施するためのプラグイン

以下に各プラグインの詳細を示す。

5.1. OS プラグイン

OS プラグインは個々のOS に依存した処理を定義するためのプラグインである。

5.1.1. KNOPPIX5.0_ja プラグイン

KNOPPIX5.0 日本語版固有処理を定義したプラグインである。

対象とする KNOPPIX のバージョンは 5.0 系 (仕様書執筆時点では 5.0, 5.0.1) とする。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[KNOPPIX5.0_ja プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス] ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。

表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

5.2. メディアプラグイン

5.2.1. CD プラグイン

リマスタリング対象のメディアとしてCDを選択するときを使用される、CDメディア固有処理を定義したプラグインである。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

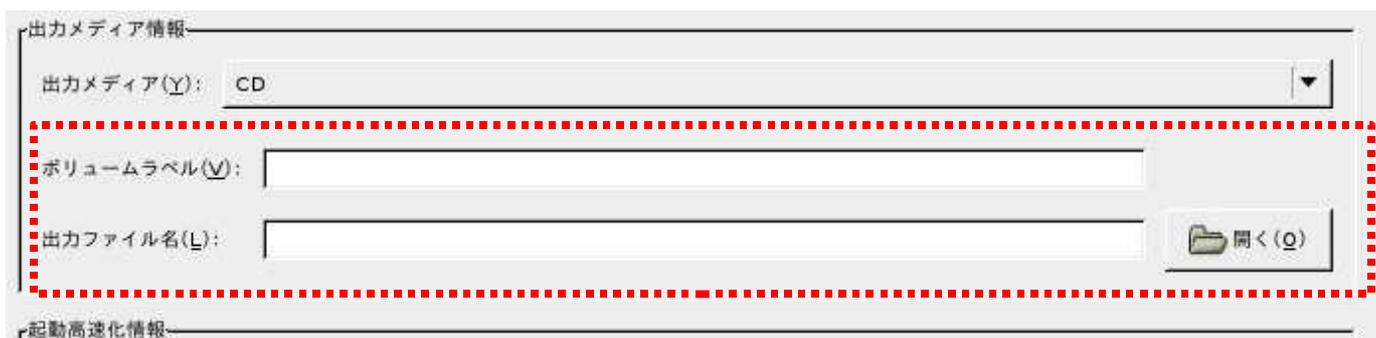
【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[CD プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【ディストリビューション作成画面の右上ペイン】



赤の点線枠の内側がCDプラグインで表示する領域

ディストリビューション作成画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ボリュームラベル	エントリ (エディットボックス)	ALT+V	作成する CD メディアのボリュームラベルを設定する。 【最大長】255 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	出力ファイル名	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	リマスタリング対象 OS の CD イメージのファイル名を設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	開く	ボタン	ALT+O	ファイル選択ダイアログを開く。 すでに存在しているファイルを指定した場合、上書きの是非を確認するメッセージボックス(Rub/GTK2 標準の上書き確認メッセージダイアログ)を表示する。

ディストリビューション作成画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	開くボタンのクリック	1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 2 OK ボタン以外でダイアログが終了した場合、以下の処理は実行しない。 3 すでに存在するファイルを選択した場合、Rub/GTK2 標準の上書き確認メッセージダイアログを表示する。 4 3でOK 以外をクリックした場合は以下の処理は実行しない。 5 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを[出力ファイル名]エントリに設定する。

5.2.2. DVD プラグイン

リマスタリング対象のメディアとしてDVDを選択するとき使用される、DVDメディア固有処理を定義したプラグインである。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。
 本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[DVD プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス] ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。
 表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【ディストリビューション作成画面の右上ペイン】



赤の点線枠の内側が DVD プラグインで表示する領域

ディストリビューション作成画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ボリュームラベル	エントリ (エディットボックス)	ALT+V	作成する DVD メディアのボリュームラベルを設定する。 【最大長】255 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	出力ファイル名	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	リマスタリング対象 OS の DVD イメージのファイル名を設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	開く	ボタン	ALT+O	ファイル選択ダイアログを開く。 すでに存在しているファイルを指定した場合、上書きの是非を確認するメッセージボックス(Rub/GTK2 標準の上書き確認メッセージダイアログ)を表示する。

ディストリビューション作成画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	開くボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 2 OK ボタン以外でダイアログが終了した場合、以下の処理は実行しない。 3 すでに存在するファイルを選択した場合、Rub/GTK2 標準の上書き確認メッセージダイアログを表示する。 4 3でOK 以外をクリックした場合は以下の処理は実行しない。 5 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを[出力ファイル名]エントリに設定する。

5.2.3. USB プラグイン

リマスタリング対象のメディアとして USB を選択するときを使用される、USB メディア固有処理を定義したプラグインである。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

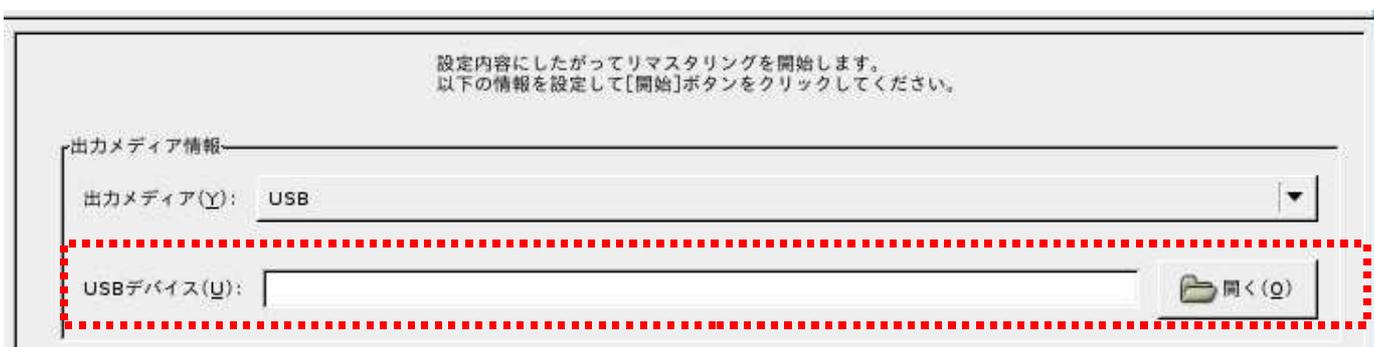
【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[USB プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。
表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【ディストリビューション作成画面の右上ペイン】



赤の点線枠の内側がUSBプラグインで表示する領域

ディストリビューション作成画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	USBデバイス	エントリ (エディットボックス)	ALT+U	リマスタリング対象 OS の USB デバイス名を設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	開く	ボタン	ALT+O	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、USB デバイスを選択する。 "/dev/35r レクトリを初期表示ディレクトリとして表示する。

ディストリビューション作成画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	開くボタンのクリック	1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。 2 OK ボタン以外でダイアログが終了した場合、以下の処理は実行しない。 3 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを[USB デバイス]エントリに設定する。

5.3. エクスポートプラグイン

エクスポートプラグインはリマスタリングツール上で設定したリマスタリング手順をファイルに保存するためのプラグインである。

なお、XMLプラグインに限りファイルに保存したリマスタリング手順をリマスタリングツールで読み込むことにより、同一の手順を再現可能とする。

5.3.1. XML プラグイン

XML プラグインはリマスタリング手順を XML 形式でファイルに保存するためのプラグインである。

XML プラグインで保存したリマスタリング手順はリマスタリングツールで読み込むことにより同一の手順を再現することができる。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[XML プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

XML プラグインが出力するリマスタリング手順ファイルの形式については「4.1 リマスタリング手順ファイル」を参照のこと。

5.3.2. HTML プラグイン

HTML プラグインはリマスタリング手順を HTML 形式でファイルに保存するためのプラグインである。プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

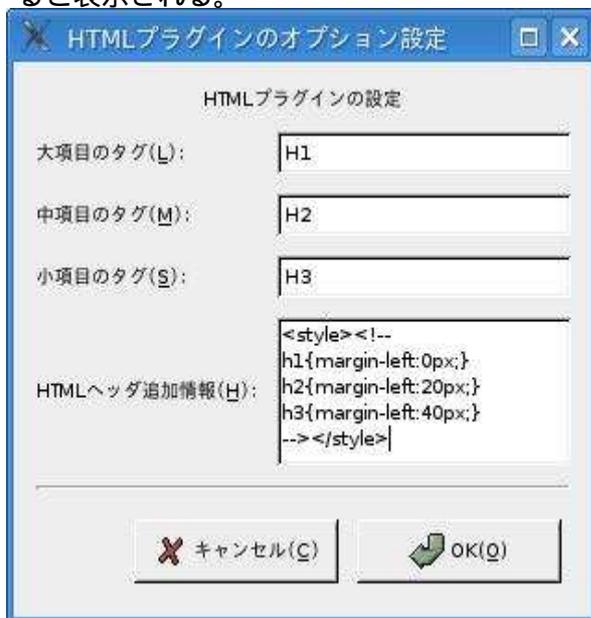
アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[HTML プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【オプションダイアログ】

オプションダイアログはリマスタリングツールの[オプション]-[HTML プラグインの設定]をクリックすると表示される。



オプションダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	大項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	リマスタリング手順の大項目に対して表示する HTML のタグ。
2	中項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+M	リマスタリング手順の中項目に対して表示する HTML のタグ。
3	小項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+S	リマスタリング手順の小項目に対して表示する HTML のタグ。
4	HTML ヘッダ情報	テキストビュー	ALT+H	HTML ドキュメントのヘッダ部(<head> ~ </head>)の間に記述する情報を設定する。 表示の見栄えを変更するためのスタイルシートを記述する等の用途に使用する。
5	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを終了する。
6	OK	ボタン	ALT+O	設定された内容を反映してダイアログを終了する。

オプションダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 前回オプション設定時の大項目、中項目、小項目のタグを取得し、それぞれ部品 から に設定する(GConf 使用)。値を取得できなかった場合はそれぞれ H1€35' H2€35' H3€35' に設定する。
2	キャンセルボタンのクリック	1 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。
3	OK ボタンのクリック	1 部品 から の設定内容を設定保存ファイルに保存する(GConf 使用)。 2 ダイアログを閉じる。

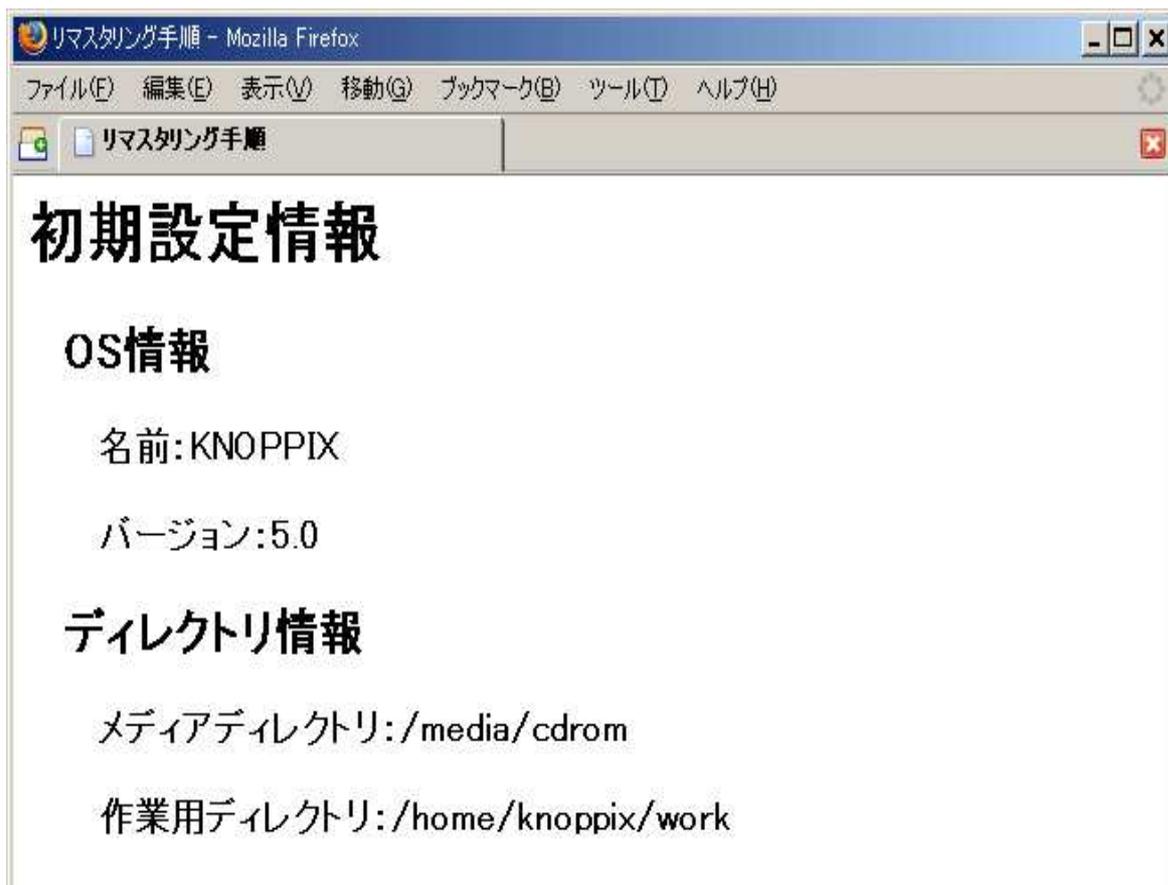
HTML プラグインの出力例

```

<HTML>
<HEAD>
<META http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">
<TITLE>リマスタリング手順</TITLE>
<style><!--
h1{margin-left:0px;}
h2{margin-left:20px;}
h3{margin-left:40px;}
--></style>
</HEAD>

<BODY>
<H1>初期設定情報</H1>
<H2>OS 情報</H2>
<H3>名前 : KNOPPIX</H3>
<H3>バージョン : 5.0</H3>
<H2>ディレクトリ情報</H2>
<H3>メディアディレクトリ : /media/cdrom</H3>
<H3>作業用ディレクトリ : /home/knoppix/work</H3>
:
</BODY>
</HTML>

```



5.3.3. Wikiプラグイン

Wikiプラグインはリマスタリング手順をWikiの記述形式でファイルに保存するためのプラグインである。本プラグインで出力したファイルの内容をWikiの編集画面上にコピー＆ペーストすることによりWikiのページを作成することができる。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供する画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[Wikiプラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【オプションダイアログ】

オプションダイアログはリマスタリングツールの[オプション]-[Wikiプラグインの設定]をクリックすると表示される。



オプションダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	大項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+L	リマスタリング手順の大項目に対して表示する Wiki のタグ。
2	中項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+M	リマスタリング手順の中項目に対して表示する Wiki のタグ。
3	小項目のタグ	エントリ (エディットボックス)	ALT+S	リマスタリング手順の小項目に対して表示する Wiki のタグ。
4	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを終了する。
5	OK	ボタン	ALT+O	設定された内容を反映してダイアログを終了する。

オプションダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 前回オプション設定時の大項目、中項目、小項目のタグを取得し、それぞれ部品 から に設定する(GConf使用)。値を取得できなかった場合はそれぞれ " *€35 **€35 ***€€設定する。
2	キャンセルボタンのクリック	1 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。
3	OK ボタンのクリック	1 部品 から の設定内容を設定保存ファイルに保存する(GConf使用)。 2 ダイアログを閉じる。

Wiki プラグインの出力例

```
*初期設定情報
**OS 情報
***名前: KNOPPIX
***バージョン: 5.0
**ディレクトリ情報
***メディアディレクトリ: /media/cdrom
***作業用ディレクトリ: /home/knoppix/work
:
```

HTML ブラウザ(Firefox1.5)での表示例

初期設定情報 ⁺
OS情報 ⁺
名前:KNOPPIX ⁺
バージョン:5.0 ⁺
ディレクトリ情報 ⁺
メディアディレクトリ:/media/cdrom ⁺
作業用ディレクトリ:/home/knoppix/work ⁺

5.4. パッケージプラグイン

5.4.1. Deb プラグイン

deb形式のパッケージ固有処理を定義したプラグインである。
プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

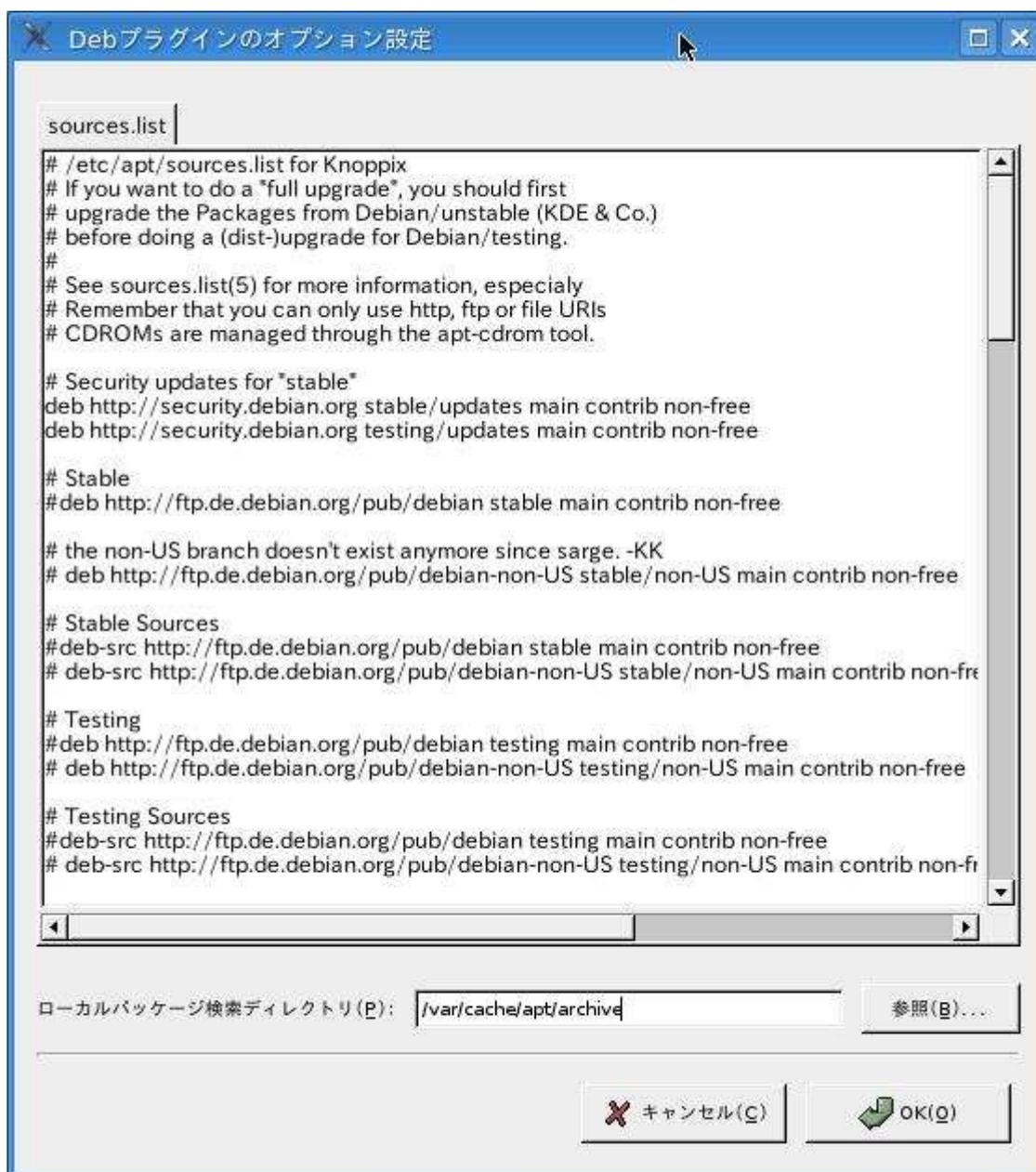
アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[Deb プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。
表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【オプションダイアログ】

オプションダイアログはリマスタリングツールの[オプション]-[Deb プラグインの設定]をクリックすると表示される。



オプションダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	パッケージの格納場所	テキストビュー		apt-get コマンドで参照するパッケージインデックスの配布サイトを設定する。 初期状態では/etc/apt/sources.list ファイルの内容を表示する。
2	ローカルパッケージ検索ディレクトリ	エントリ (エディットボックス)	ALT+P	パッケージを検索するときに検索するローカルマシン上のディレクトリを指定する。 パッケージ作成機能で作成したパッケージはここで設定したディレクトリに格納される。 【最大長】 4096 文字
3	参照	ボタン	ALT+B	ローカルパッケージ検索ディレクトリを設定するために Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを表示する。
4	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを終了する。
5	OK	ボタン	ALT+O	設定された内容を反映してダイアログを終了する。

オプションダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> すでに初期設定が完了している場合、/etc/apt/sources.list ファイルを読み込み、[パッケージの格納場所]テキストビューに設定する。未完了の場合は[パッケージの格納場所]テキストビューは無効状態（グレー表示）に設定する。 Gconfを使用して保存してあるオプション情報（ローカルパッケージ検索ディレクトリ）を読み込み、[ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリに設定する。Gconfから設定を取得できない場合、"/var/cache/remastering/archive/deb"に設定する。
2	参照ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを表示する（ディレクトリオープンモード）。 ファイル選択ダイアログが[OK]のクリックで終了した場合、ダイアログで選択したディレクトリの絶対パスを[ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリに設定する。
3	キャンセルボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。
4	OK ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [パッケージの格納場所]テキストビューが有効状態の場合、[パッケージの格納場所]テキストビューの内容を/etc/apt/sources.list に書き込む。 GConfを使用して[ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリの内容を保存する。 ダイアログを閉じる。

オプションダイアログのポップアップメニュー

なし

【パッケージ作成画面の右上ペイン】

点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

パッケージ作成画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	パッケージ名	エントリ (テキストボックス)	ALT+C	作成するパッケージの名前を入力する。 【最大長】256文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	バージョン	エントリ (テキストボックス)	ALT+E	作成するパッケージのバージョンを入力する。 【最大長】256文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	説明	テキストビュー	ALT+R	作成するパッケージの説明文を設定する。 【最大長】4096文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
4	詳細	ボタン	ALT+D	作成するパッケージの詳細情報を指定する「パッケージ詳細情報設定」ダイアログを開く。

パッケージ作成画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	詳細ボタンクリック時	1 deb プラグインの「パッケージ詳細情報設定」ダイアログを開く。
2	パッケージの読み込みボタンクリック時	2

パッケージ作成画面の右上ペインのポップアップメニュー

なし

【パッケージ詳細情報ダイアログ】

パッケージ作成画面から呼び出され、作成するパッケージの詳細情報を設定する。

パッケージ詳細情報ダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	セクション	コンボボックス	ALT+S	作成するパッケージのセクションを指定する。 以下のいずれかを選択可能。 ● main ● non-free ● contrib
2	サブセクション	コンボボックスエントリ (入力可能なコンボボックス)	ALT+U	作成するパッケージのサブセクションを指定する。 以下のいずれかを選択可能。 "admin", "base", "comm", "debian-installer", "devel", "doc", "editors", "electronics", "embedded", "games", "gnome", "graphics", "hamradio", "interpreters", "kde", "libdevel", "libs", "mail", "math", "misc", "net", "news", "oldlibs", "otherosfs", "perl",

項番	名前	部品	ショートカット	説明
				"python", "science", "shells", "sound", "tex", "text", "utils", "virtual", "web", "x11"
3	アーキテクチャ	コンボボックスエントリ (入力可能なコンボボックス)	ALT+C	作成するパッケージのアーキテクチャを指定する。 以下のいずれかを選択可能。 "any", "all", "alpha", "amd64", "arm", "hurd-i386", "i386", "ia64", "m68k", "mips", "mipsel", "powerpc", "s390", "sparc" "any" はシステムによる自動認識、"all" はすべてのアーキテクチャ共通であることを意味する。
4	優先度	コンボボックス	ALT+P	作成するパッケージの優先度を指定する。 以下から選択する。 "required", "important", "standard", "optional", "extra"
5	メンテナ	エントリ (テキストボックス)	ALT+M	パッケージのメンテナを設定する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
6	E-Mail	エントリ (テキストボックス)	ALT+E	パッケージのメンテナの E-Mail アドレスを設定する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
7	コピーライト	テキストビュー	ALT+Y	作成するパッケージのコピーライトを設定する。 【最大長】4096 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
8	開く (コピーライト)	ボタン	ALT+O	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、指定したファイルを [コピーライト] テキストビューに設定する。
9	更新履歴	テキストビュー	ALT+N	作成するパッケージの更新履歴を設定する。 【最大長】文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
10	開く (更新履歴)	ボタン	ALT+O	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、指定したファイルを [更新履歴] テキストビューに設定する。
11	依存関係	ツリービュー (リスト)	ALT+D	作成するパッケージが依存するパッケージを設定する。 リストは複数選択が可能。 表示するカラムは「パッケージ名」、「必要とするバージョン」、「関係」の3つ。
12	追加	ボタン	ALT+A	deb パッケージの「パッケージ選択」ダイアログを開く。ダイアログで指定したパッケージは [依存関係] リストに対以下する。
13	削除 (依存関係)	ボタン	ALT+R	[依存関係] リストで選択しているパッケージを削除する。
14	README.Debian	テキストビュー	ALT+B	パッケージに関して何か特別にユーザに知らせる必要がある情報や、オリジナルのソフトウェアとあなたが Debian パッケージにしたバージョンとの相違点等を記述する。
15	開く (README.Debian)	ボタン	ALT+O	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、指定したファイルを [README.Debian] テキストビューに設定する。
16	キャンセル	ボタン	ALT+C	ダイアログを閉じる。

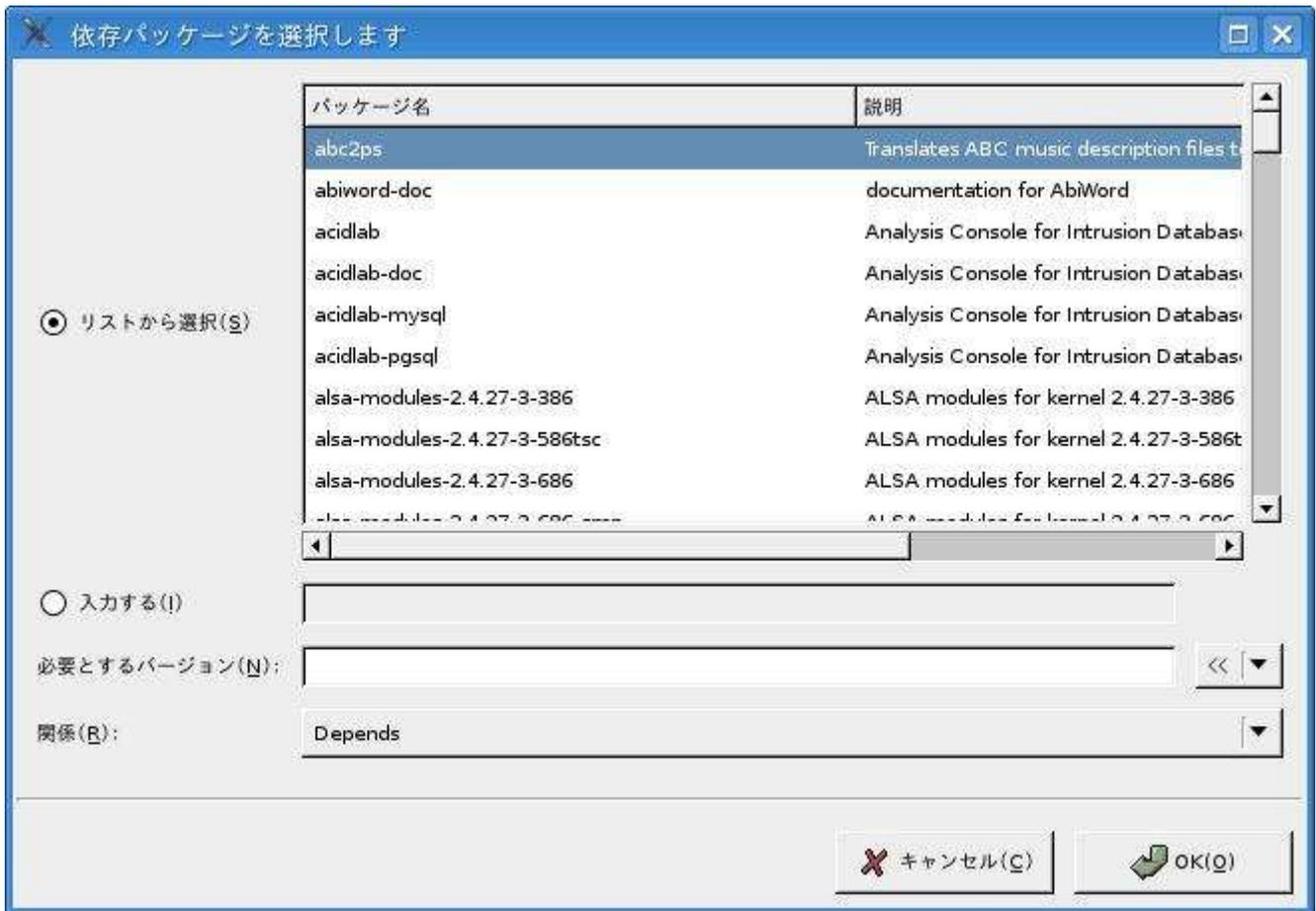
パッケージ詳細情報ダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	開く（コピーライト）ボタンクリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。初期表示のディレクトリは "/usr/share/debhelper/dh_make/licenses" パッケージ作成コマンドが用意しているコピーライトのテンプレートファイルを格納しているディレクトリ)とする。 2 ファイル選択ダイアログが OK ボタン以外で閉じた場合、以降の処理は実施しない。 3 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを読み込み、その内容を [コピーライト]テキストビューに設定する。
2	開く（更新履歴）ボタンクリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。初期表示のディレクトリは指定なし。 2 ファイル選択ダイアログが OK ボタン以外で閉じた場合、以降の処理は実施しない。 3 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを読み込み、その内容を [更新履歴]テキストビューに設定する。
3	追加ボタンクリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 依存パッケージ選択ダイアログを表示する。 2 依存パッケージ選択ダイアログが OK ボタン以外で閉じた場合、以降の処理は実施しない。 3 依存パッケージ選択ダイアログで選択したパッケージを [依存関係]リストに追加する。
4	削除ボタンクリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 [依存関係]リストで選択しているパッケージを [依存関係]リストから削除する。
5	開く（README.Debian）ボタンクリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開く。初期表示のディレクトリは指定なし。 2 ファイル選択ダイアログが OK ボタン以外で閉じた場合、以降の処理は実施しない。 3 ファイル選択ダイアログで選択したファイルを読み込み、その内容を [README.Debian]テキストビューに設定する。

パッケージ詳細情報ダイアログのポップアップメニュー
なし

【依存パッケージ選択ダイアログ】

パッケージ詳細情報画面から呼び出され、作成するパッケージが依存するパッケージを選択する。



依存パッケージ選択ダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	指定方法の選択	ラジオボタン	ALT+S/I	<p>パッケージの指定方法を選択する。 以下から指定可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リストから選択 一覧表から選択する場合にチェックする。 ・入力する 直接入力して指定する場合にチェックする。 <p>[リストから選択]をチェックした場合、[パッケージ名指定] エントリは無効状態になる。 [入力する]をチェックした場合、[パッケージ一覧]リストは無効状態になる。</p>
2	パッケージ一覧	ツリービュー (リスト)		<p>パッケージの一覧を表示し、依存パッケージを選択する。 表示項目は「パッケージ名」、「説明」の2項目。 行の選択は複数行選択が可能であり、選択したすべてのパッケージに対して一度に依存関係を設定できる。</p>
3	パッケージ名	エントリ (エディットボックス)		<p>依存するパッケージ名を直接入力する。 一覧に載っていないような (例えば自作パッケージなど) を指定する場合に使用する。 【最大長】64文字 【初期値】無し 【入力チェック】[入力する]ラジオボタン選択時は未入力不可</p>
4	必要とするバージョン	エントリ (エディットボックス)	ALT+N	<p>指定したパッケージの特定のバージョンに依存する場合にそのバージョンを指定する。 【最大長】32文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可</p>

項番	名前	部品	ショートカット	説明
5	バージョン比較子	コンボボックス		<p>指定した依存バージョンとどのように比較を行うかを指定する。以下から指定可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> • << -- 指定したバージョン未満に依存 • <= -- 指定したバージョン以下に依存 • = -- 指定したバージョンに依存 • >= -- 指定したバージョン以上に依存 • >> -- 指定したバージョン超に依存
6	関係	コンボボックス	ALT+R	<p>どのように依存するかを指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Depends: 「依存」 パッケージはここで指定したパッケージをインストールしない限り インストールされません。特定のパッケージに依存していて、そのパッケージが存在しない限り全く動作しない (または非常に重大な問題が発生する) 場合に使用する。 • Recommends: 「推奨」 厳密に言えばプログラムの動作に 必須ではないけれど、一緒に使うことがほぼ前提となっているようなパッケージの場合に使用する。 • Suggests: 「提案」 パッケージの動作に必要というわけではないが、これがあると もっと便利に使える、というパッケージの場合に使用する。 • Pre-Depends: 「先行依存」 Pre-Depends は Depends よりも強い関係を示す。ここで指定されたパッケージがあらかじめインストールされ、かつ適切に設定されていない限り、作成したパッケージをインストールしない。この指定はできるだけ 使わないようにする (Debian メンテナガイドより)。 • Conflicts: 「競合」 ここで指定されたパッケージが削除されない限り、作成するパッケージはインストールはされない。特定のパッケージが存在しているとプログラムが動作しない (または非常に重大な問題が起きる) 場合に、この指定を使う。 • Provides: 「提供」 ほぼ同じ機能を持つパッケージが複数あって、選択の余地がある場合のために、仮想パッケージ名が定義されている。仮想パッケージ名の一覧は、ファイル <code>/usr/share/doc/debian-policy/virtual-package-names-list.txt.gz</code> にある。プログラムが既存の仮想パッケージに相当する機能を提供する場合にこれを使用する。 • Replaces: 「置換」

項番	名前	部品	ショートカット	説明
				作成するパッケージプログラムが他のパッケージに含まれるファイルを上書きする場合、または他のパッケージ全体を完全に置き換えてしまう場合(この場合は Conflicts: も一緒に指定する) この指定を使う。
7	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを閉じる。
8	OK	ボタン	ALT+O	設定内容を反映してダイアログを閉じる。

依存パッケージ選択ダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	指定方法の選択ラジオボタンクリック時	1 [リストから選択]をチェックした場合、[パッケージ名指定]エントリを無効状態にする 2 [入力する]をチェックした場合、[パッケージ一覧]リストを無効状態にする。
2	キャンセルボタンクリック時	1 設定内容を反映せずにダイアログを閉じる。
3	OK ボタンクリック時	1 設定内容をパッケージ詳細情報ダイアログに通知する。 2 ダイアログを閉じる。

依存パッケージ選択ダイアログのポップアップメニュー
なし

5.4.2. RPM プラグイン

RPM形式のパッケージ固有処理を定義したプラグインである。
プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

アバウトダイアログはリマスタリングツールの[ヘルプ]-[RPM プラグインについて]をクリックすると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。
表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【オプションダイアログ】

オプションダイアログはリマスタリングツールの[オプション]-[RPMプラグインの設定]をクリックすると表示される。



オプションダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	設定ファイル	ノートブック内のテキストビュー		/etc/yum.repos.dディレクトリ配下の設定ファイルをファイル毎にタブでテキストビューに表示する。
2	ローカルパッケージ検索ディレクトリ	エントリ (エディットボックス)	ALT+P	パッケージを検索するときに検索するローカルマシン上のディレクトリを指定する。 パッケージ作成機能で作成したパッケージはここで設定したディレクトリに格納される。 【最大長】4096文字
3	参照	ボタン	ALT+B	ローカルパッケージ検索ディレクトリを設定するためにRuby/GTK2標準のファイル選択ダイアログを表示する。
4	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを終了する。
5	OK	ボタン	ALT+O	設定された内容を反映してダイアログを終了する。

オプションダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	<ol style="list-style-type: none"> すでに初期設定が完了している場合、/etc/yum.repos.dディレクトリのファイル一覧を取得して各ファイルを読み込む。表示はファイル毎にタブページを作成し、そこにファイルの内容を表示する。未完了の場合は[パッケージの格納場所]ノートブックは無効状態 (グレー表示) に設定する。 Gconfを使用して保存してあるオプション情報 (ローカルパッケージ検索ディレクトリ) を読み込み、 [ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリに設定する。Gconfから設定を取得できない場合、"/var/cache/remastering/archives/rpm€€設定する。
2	参照ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> Ruby/GTK2標準のファイル選択ダイアログを表示する (ディレクトリオープンモード) 。 ファイル選択ダイアログが[OK]のクリックで終了した場合、ダイアログで選択したディレクトリの絶対パスを[ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリに設定する。
3	キャンセルボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。
4	OK ボタンのクリック	<ol style="list-style-type: none"> [パッケージの格納場所]ノートブックが有効状態の場合、設定ファイルの各タブのファイルを/etc/yum.repos.d配下書き戻す (変更されたファイルのみ) 。 GConfを使用して[ローカルパッケージ検索ディレクトリ]エントリの内容を保存する。 ダイアログを閉じる。

オプションダイアログのポップアップメニュー

なし

【パッケージ作成画面の右上ペイン】

点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

The screenshot shows a window titled "パッケージ情報" (Package Information). At the top, there is a dropdown menu for "パッケージ形式(P):" set to "RPM". Below this, several input fields are listed: "パッケージ(C):", "バージョン(E):", "リリース(L):", "概要(S):", and "説明(O):". A red dashed rectangular box encloses these fields and a "詳細(D)..." button located at the bottom right of the section. Below the dashed box, there is a section titled "パッケージ内容(B)" (Package Content) which is currently empty.

パッケージ作成画面の右上ペインの部品説明

パッケージ作成画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	詳細ボタンクリック時	1 RPMプラグインの「パッケージ詳細情報設定」ダイアログを開く。

パッケージ作成画面の右上ペインのポップアップメニュー

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	パッケージ名	エントリ (テキストボックス)	ALT+C	作成するパッケージの名前を入力する。 【最大長】256文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
2	バージョン	エントリ (テキストボックス)	ALT+E	作成するパッケージのバージョンを入力する。 【最大長】256文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	リリース	エントリ (テキストボックス)	ALT+L	作成するパッケージのリリース番号を入力する。 【最大長】256文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
4	概要	エントリ (テキストボックス)	ALT+S	作成するパッケージの概要説明を入力する。 【最大長】100文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
5	説明	テキストビュー	ALT+R	作成するパッケージの説明文を設定する。 【最大長】4096文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
6	詳細	ボタン	ALT+D	作成するパッケージの詳細情報を指定する「パッケージ詳細情報設定」ダイアログを開く。

なし

【パッケージ詳細情報ダイアログ】

パッケージ作成画面から呼び出され、作成するパッケージの詳細情報を設定する。

パッケージ詳細情報ダイアログの部品説明

RPMパッケージ詳細情報

パッケージ情報

グループ(G): Amusements/Games

アーキテクチャ(H): noarch

パッケージ名(P):

E-Mail(E):

ベンダ(V):

コピーライト(Y):

更新履歴(N):

パッケージ名	必要とするバージョン	関係
依存関係(D):		

+ 追加(A)

- 削除(R)

X 閉じる(C)

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	グループ	コンボボックス (入力可能なコンボボックス)	ALT+G	作成するパッケージのグループを指定する。 以下のいずれかを選択または直接入力が可能。 "Amusements/Games", "Amusements/Graphics", "Applications/Archiving", "Applications/Communications", "Applications/Databases", "Applications/Editors", "Applications/Emulators", "Applications/Engineering", "Applications/File", "Applications/Internet", "Applications/Multimedia", "Applications/Productivity", "Applications/Publishing", "Applications/System", "Applications/Text", "Development/Debuggers", "Development/Languages", "Development/Libraries", "Development/System", "Development/Tools", "Documentation", "System Environment/Base", "System Environment/Daemons", "System Environment/Kernel", "System Environment/Libraries", "System Environment/Shells",

項番	名前	部品	ショートカット	説明
				"User Interface/Desktops", "User Interface/X", "User Interface/X Hardware Support"
2	アーキテクチャ	コンボボックスエントリ (入力可能なコンボボックス)	ALT+H	作成するパッケージのアーキテクチャを指定する。以下のいずれかを選択可能。 "noarch", "i386", "i486", "i586", "i686", "athlon", "ia64", "x86_64", "amd64", "alpha", "alphaev5", "alphaev56", "alphapca56", "alphaev6", "alphaev67", "sparc", "sparcv9", "sparc64", "m68k", "ppc", "ppcseries", "ppcseries", "ppc64", "parisc", "hppa1.0", "hppa1.1", "hppa1.2", "hppa2.0", "mips", "mipsel", "armv3l", "armv4b", "armv4l", "atarist", "atariste", "ataritt", "falcon", "atariclone", "milan", "hades", "s390", "s390x" "noarch" はアーキテクチャに依存しないスクリプトのようなファイルで構成されているパッケージであることを示す。
3	パッケージャ	エントリ (テキストボックス)	ALT+P	パッケージの作成者を設定する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
4	E-Mail	エントリ (テキストボックス)	ALT+E	パッケージの作成者の E-Mail アドレスを設定する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
5	ベンダ	エントリ (テキストボックス)	ALT+V	パッケージを作成したベンダを設定する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
6	コピーライト	テキストビュー	ALT+Y	作成するパッケージのコピーライトを設定する。"BSD" や "GPL" 等簡潔に記載する。 【最大長】256 文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
7	更新履歴	テキストビュー	ALT+N	作成するパッケージの更新履歴を設定する。 【最大長】文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可
8	依存関係	ツリービュー (リスト)	ALT+D	作成するパッケージが依存するパッケージを設定する。リストは複数選択が可能。表示するカラムは「パッケージ名」、「必要とするバージョン」、「関係」の3つ。
9	追加	ボタン	ALT+A	RPM パッケージの「パッケージ選択」ダイアログを開く。ダイアログで指定したパッケージは [依存関係] リストに対以下する。
10	削除 (依存関係)	ボタン	ALT+R	[依存関係] リストで選択しているパッケージを削除する。
11	キャンセル	ボタン	ALT+C	ダイアログを閉じる。

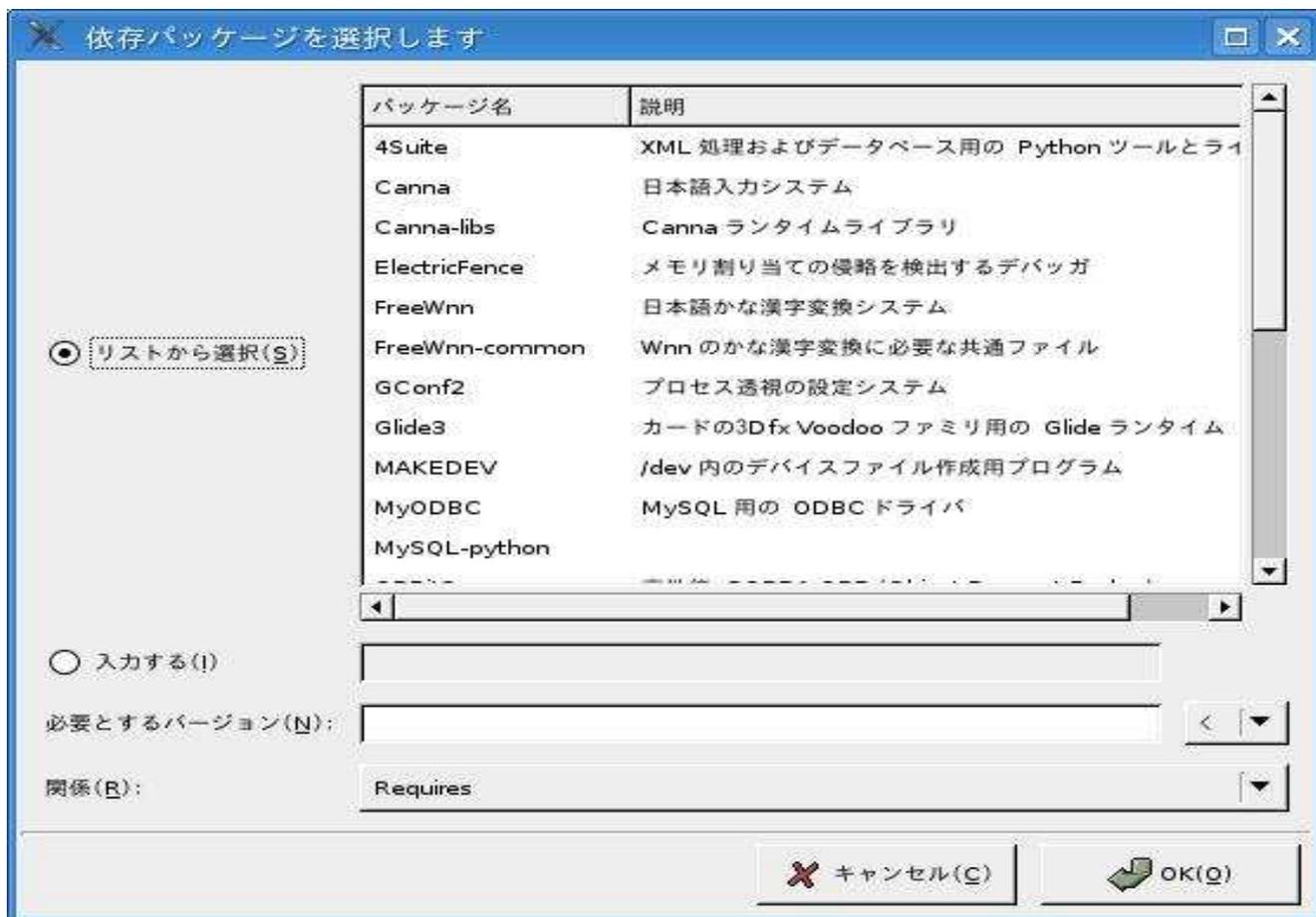
パッケージ詳細情報ダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	追加ボタンクリック時	1 依存パッケージ選択ダイアログを表示する。 2 依存パッケージ選択ダイアログが OK ボタン以外で閉じた場合、以降の処理は実施しない。 3 依存パッケージ選択ダイアログで選択したパッケージを [依存関係] リストに追加する。
2	削除ボタンクリック時	1 [依存関係] リストで選択しているパッケージを [依存関係] リストから削除する。
3	閉じるボタンクリック時	1 パッケージ詳細情報ダイアログを閉じる。

パッケージ詳細情報ダイアログのポップアップメニュー
なし

【依存パッケージ選択ダイアログ】

パッケージ詳細情報画面から呼び出され、作成するパッケージが依存するパッケージを選択する。



依存パッケージ選択ダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	指定方法の選択	ラジオボタン	ALT+S/I	パッケージの指定方法を選択する。 以下から指定可能。 ・リストから選択 一覧表から選択する場合にチェックする。 ・入力する 直接入力して指定する場合にチェックする。

項番	名前	部品	ショートカット	説明
				[リストから選択]をチェックした場合、[パッケージ名指定] エントリは無効状態になる。 [入力する]をチェックした場合、[パッケージ一覧]リストは無効状態になる。
2	パッケージ一覧	ツリービュー (リスト)		パッケージの一覧を表示し、依存パッケージを選択する。 表示項目は「パッケージ名」、「説明」の2項目。 行の選択は複数行選択が可能であり、選択したすべてのパッケージに対して一度に依存関係を設定できる。
3	パッケージ名	エントリ (エディットボックス)		依存するパッケージ名を直接入力する。 一覧に載っていないような (例えば自作パッケージなど) を指定する場合に使用する。 【最大長】64文字 【初期値】無し 【入力チェック】[入力する]ラジオボタン選択時は未入力不可
4	必要とするバージョン	エントリ (エディットボックス)	ALT+N	指定したパッケージの特定のバージョンに依存する場合にそのバージョンを指定する。 【最大長】32文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可
5	バージョン比較子	コンボボックス		指定した依存バージョンとどのように比較を行うかを指定する。以下から指定可能。 ・ < -- 指定したバージョン未満に依存 ・ <= -- 指定したバージョン以下に依存 ・ = -- 指定したバージョンに依存 ・ >= -- 指定したバージョン以上に依存 ・ > -- 指定したバージョン超に依存
6	関係	コンボボックス	ALT+R	どのように依存するかを指定する。 ・ Requires 作成している rpm パッケージが動作するのに必要なパッケージに対して指定する。 ・ Provides 作成している rpm パッケージが他のパッケージが依存するパッケージの機能を提供する場合に指定する。 ・ Conflicts Requires と逆の意味を持つ。すなわち、共存できないパッケージ名を指定する。 ・ Obsoletes 作成しているパッケージをインストールするときに他のパッケージをアンインストールする場合に指定する。 例えば、pLaTeX2e の rpm をインストールするときに、古い TeX のパッケージであった ptex はアンインストールする場合などに指定する。 ・ Prereq パッケージのインストール時に、先にインストールされているべきパッケージに対して指定する。 ・ BuildPrereq パッケージの作成の時に、インストールされているべきパッケージに対して指定する。
7	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を反映せずにダイアログを閉じる。
8	OK	ボタン	ALT+O	設定内容を反映してダイアログを閉じる。

依存パッケージ選択ダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	指定方法の選択ラジオボタンクリック時	1 [リストから選択]をチェックした場合、[パッケージ名指定]エントリを無効状態にする 2 [入力する]をチェックした場合、[パッケージ一覧]リストを無効状態にする。
2	キャンセルボタンクリック時	1 設定内容を反映せずにダイアログを閉じる。
3	OK ボタンクリック時	1 設定内容をパッケージ詳細情報ダイアログに通知する。 2 ダイアログを閉じる。

依存パッケージ選択ダイアログのポップアップメニュー
なし

5.5. エミュレータプラグイン

エミュレータプラグインはリマスタリングしたOSイメージをCD/DVD等の外部メディアに焼く前に仮想マシン上でOSイメージのテスト実行を行うことを目的に用意する。

5.5.1. QEMUプラグイン

QEMUプラグインはリマスタリングしたOSイメージを仮想マシンソフトのQEMU上で実行するための機能を提供する。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

リマスタリングツールメニューの[ヘルプ]-[QEMU プラグインについて]を選択すると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【オプションダイアログ】

リマスタリングツールメニューの[オプション]-[QEMU プラグインの設定]を選択すると表示される。



オプションダイアログの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	コマンド	エントリ (エディットボックス)	ALT+A	qemu のコマンドパスを指定する。 【初期値】 " which qemu " の出力 【最大長】 4096 【チェック内容】 未入力不可
2	開く	ボタン	ALT+O	Ruby/GTK2 標準のファイル選択ダイアログを開き、qemu コマンドを指定する。指定した内容は[コマンド]エントリに反映する。
3	メモリサイズ	スピンボタン	ALT+M	実行する ISO イメージ上の OS のメモリサイズを MB 単位で指定する。 【最小値】 1 【最大値】 99,999,999 【初期値】 256
4	キーボードレイアウト	コンボボックス	ALT+K	実行する ISO イメージ上の OS のキーボードレイアウトを指定する。 以下から選択可能。 "ar", "da", "de", "de-ch", "en-gb", "en-us", "es", "et", "fi", "fo", "fr", "fr-be", "fr-ca", "fr-ch", "hr", "hu", "is", "it", "ja", "lt", "lv", "mk", "nl", "nl-be", "no", "pl", "pt", "pt-br", "ru", "sl", "sv", "th", "tr" 【初期値】 ja (JIS 配列キーボードレイアウト)
5	その他のオプション	エントリ (テキストボックス)	ALT+T	メモリサイズ、キーボードレイアウト以外の設定を行う場合に、qemu コマンドのコマンドラインオプションを指定する。 【最大長】 256 文字 【初期値】 無し 【入力チェック】 未入力可
6	キャンセル	ボタン	ALT+C	設定内容を保存せずにダイアログを閉じる。
7	OK	ボタン	ALT+O	設定内容を保存して (GConf 使用) ダイアログを閉じる。

オプションダイアログのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	初期表示時	1 前回オプション設定時の大項目、中項目、小項目のタグを取得し、それぞれ部品、 、 、 に設定する(GConf使用)。値を取得できなかった場合はそれぞれの部品の【初期値】に設定されている内容を設定する。
2	キャンセルボタンのクリック	1 設定内容を保存せずにダイアログを終了する。
3	OK ボタンのクリック	1 部品、 、 の設定内容を設定保存ファイルに保存する(GConf 使用)。 2 ダイアログを閉じる。

オプションダイアログのポップアップメニュー なし

5.6. テストプラグイン

テストプラグインは設定したテスト内容にしたがってリマスタリングしたOSのチェックを行い、リマスタリングOSの作成ミスを防ぐことを目的に用意する。

5.6.1. ファイルテストプラグイン

ファイルテストプラグインはリマスタリングしたOS上でファイルの過不足をチェックするための能を提供する。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

リマスタリングツールメニューの[ヘルプ]-[ファイルテストプラグインについて]を選択すると表示される。

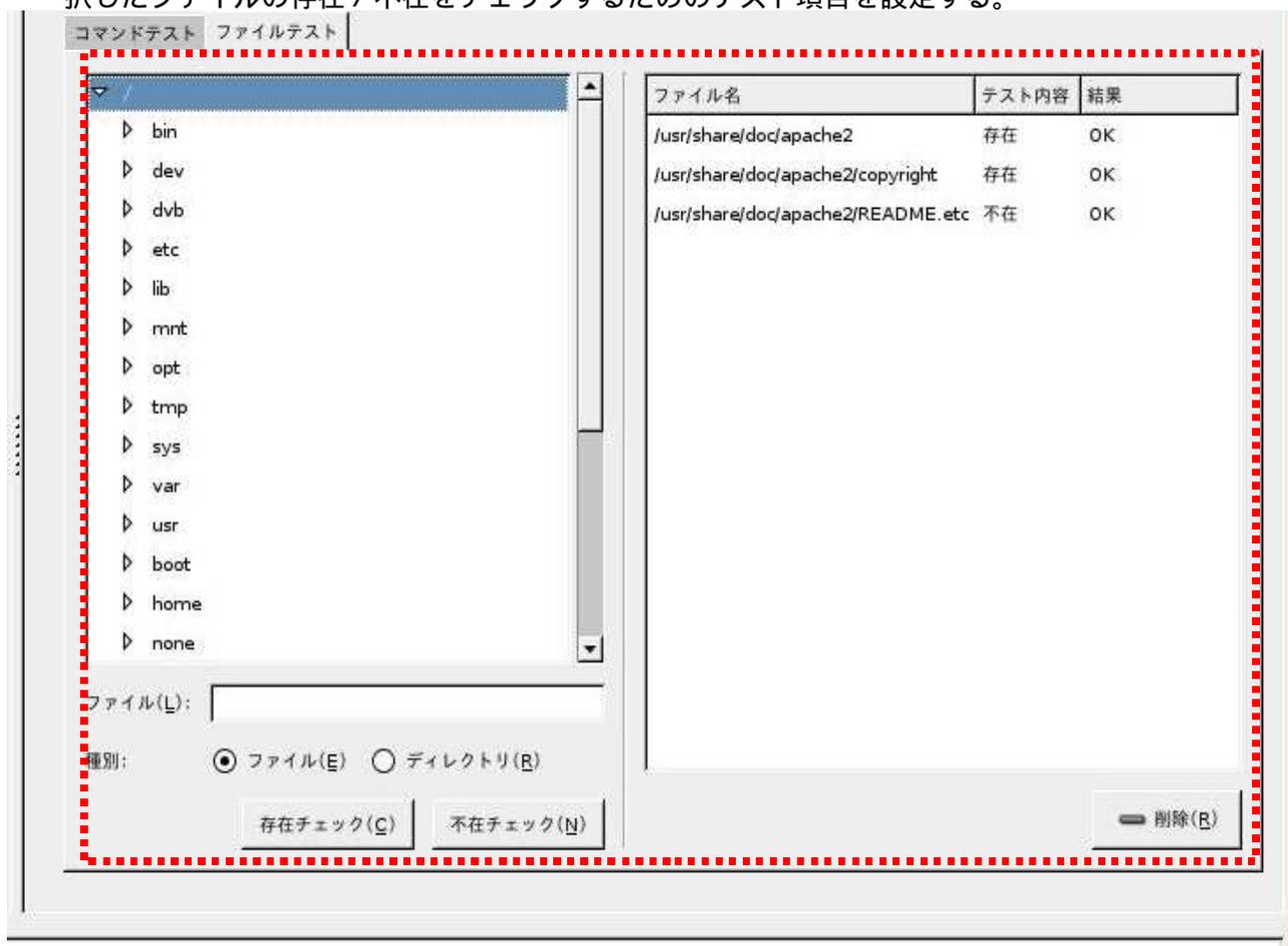


[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【自動テスト設定画面の「ファイルテスト」タブ】

自動テスト設定画面の[ファイルテスト]タブではリマスタリング対象OSのファイルツリーを表示し、選

択したファイルの存在 / 不在をチェックするためのテスト項目を設定する。



点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

自動テスト設定画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ファイルツリー	ツリービュー		リマスタリング対象OSのファイルを実際に表示する。ツリーではテスト対象のファイル名を選択する。選択したファイルは[ファイル名]エントリ、および、[種別]ラジオボタンに反映される。
2	ファイル	エントリ (テキストボックス)	ALT+L	テスト対象のファイル名を指定する。ツリー上のファイルを選択したときは自動的に選択中のファイルが絶対パスで表示されるが、本部品に手入力でも指定することもできる。 【最大長】4096文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	種別	ラジオボタン	ALT+E/R	テスト対象のファイルがどのような種別 (ファイル、ディレクトリ) で存在 (または不在) しているかを指定する。 【初期値】ファイル
4	存在チェック	ボタン	ALT+C	[ファイル]エントリ、[種別]ラジオの状態を[テスト一覧]リストに "存在チェック" として追加する。
5	不在チェック	ボタン	ALT+N	[ファイル]エントリ、[種別]ラジオの状態を[テスト一覧]リストに "不在チェック" として追加する。
6	テスト一覧	ツリービュー (リスト)	ALT+D	設定されたテスト項目の一覧を表示する。表示する項目は「ファイル名」、「チェック内容 (存在 / 不在)」、「結果」の3項目。 なお、「結果」欄はテストを実施済みの項目のみ "OK" または "NG" が表示され、未テストの項目は空欄で表示される。
7	削除	ボタン	ALT+R	[テスト一覧]リストから選択中のテスト項目を削除する。

自動テスト設定画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	ツリー上のファイル (ディレクトリ) クリック時	1 選択しているファイル (ディレクトリ) の絶対パスを [ファイル]エントリに設定する。 2 選択しているファイルの種別を [種別]ラジオボタンに設定する。 ディレクトリまたはそれ以外でチェック
2	存在チェックボタンクリック時	1 [ファイル]エントリの内容、および、種別をテスト内容「存在」にして [テスト一覧]リストに追加する。 既に同一のテスト項目が存在している場合は追加しない。
3	不在チェックボタンクリック時	1 [ファイル]エントリの内容、および、種別をテスト内容「不在」にして [テスト一覧]リストに追加する。 既に同一のテスト項目が存在している場合は追加しない。
4	削除ボタンクリック時	1 [テスト一覧]リストで選択中のテスト項目をリストから削除する。

自動テスト設定画面の「テスト一覧」リストのポップアップメニュー

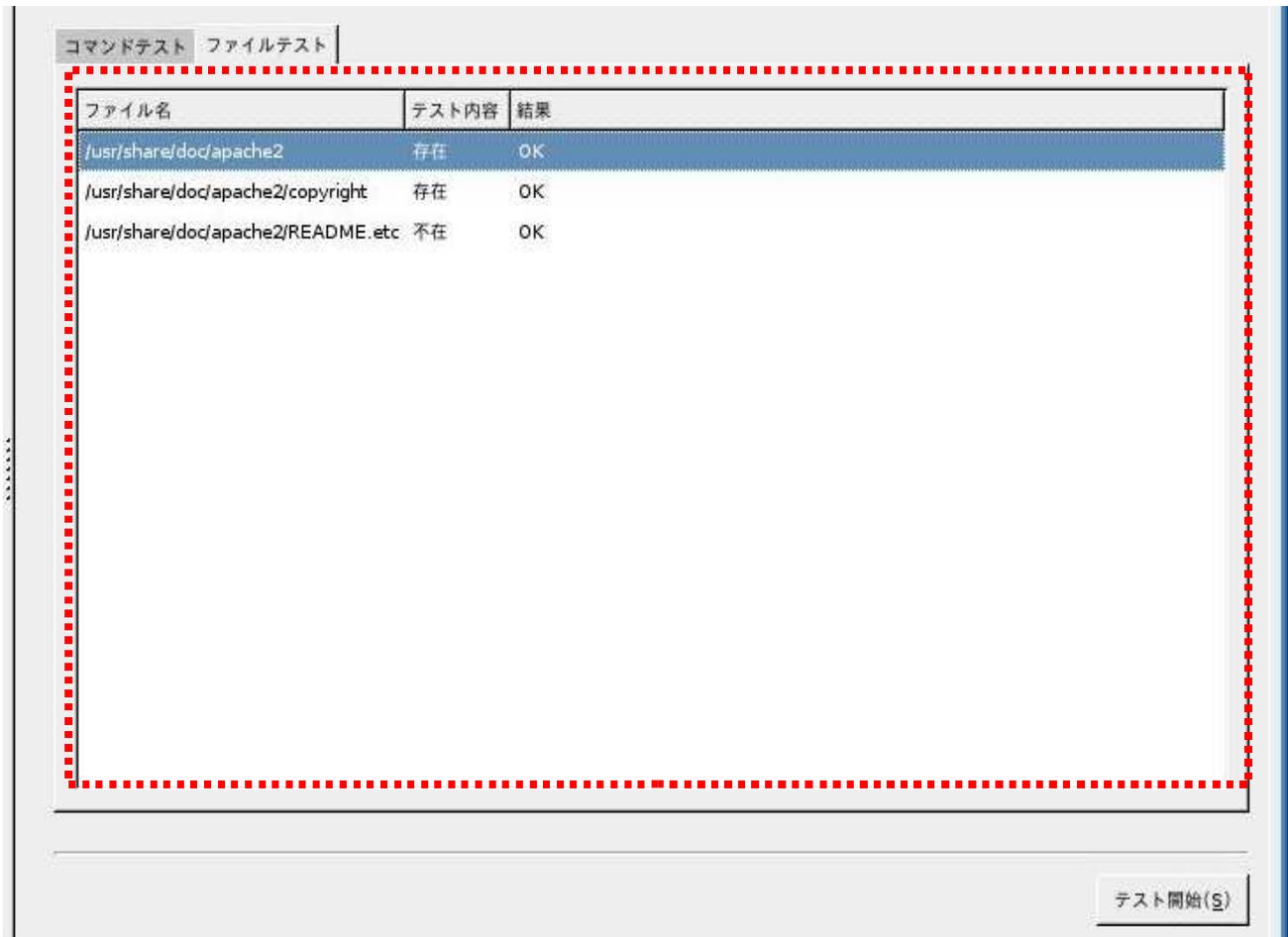
削除(D)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する (選択不可)。選択時の動作は削除ボタンのクリック時と同じ。

【自動テストの実行画面の「ファイルテスト」タブ】

自動テスト実行画面の[ファイルテスト]タブではファイルの有無チェックの項目、および、テスト結果をリストで一覧表示する。



点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

自動テスト実行画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	テスト一覧	ツリービュー (リスト)		設定されたテスト項目の一覧を表示する。表示する項目は「ファイル名」、「チェック内容(存在/不在)」、「結果」の3項目。 なお、「結果」欄はテストを実施済みの項目のみ「OK」または「NG」が表示され、未テストの項目は空欄で表示される。

自動テスト実行画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	テスト開始ボタン クリック時	<ol style="list-style-type: none"> 1 自動テスト画面からプラグインの「テスト実行」処理が呼び出される。 2 [テスト一覧]リストの上から順にテスト内容を取り出し、リマスタリング OS 上にファイルが存在しているか(または存在していないか)チェックする。 3 2の結果期待する結果が得られたテスト項目はリストの結果欄に「OK」を設定する。 4 2の結果期待する結果が得られなかったテスト項目はリストの結果欄に「NG」を設定する。

自動テスト設定画面の[テスト一覧]リストのポップアップメニュー
なし

5.6.2. コマンドテストプラグイン

コマンドテストプラグインはリマスタリングしたOS上で非インタラクティブなコマンドを実行し、その復帰値をチェックするための能を提供する。

プラグインで提供する機能については「プラグイン仕様」の章を参照のこと。

本プラグインで提供画面は以下のとおり。

【アバウトダイアログ】

リマスタリングツールメニューの[ヘルプ]-[コマンドテストプラグインについて]を選択すると表示される。



[ライセンス]ボタンをクリックして表示される画面はリマスタリングツール本体と同じである。表示内容については「3.1 各画面共通部」を参照のこと

【自動テスト設定画面の[コマンドテスト]タブ】

自動テスト設定画面の[コマンドテスト]タブではリマスタリング対象OSのファイルツリーを表示し、選択したファイル(コマンド)の起動パラメタ、および、復帰値をチェックするためのテスト項目を設定する。



点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

自動テスト設定画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	ファイルツリー	ツリービュー		リマスタリング対象OSのファイルをツリーで表示する。ツリーではテスト対象のファイル名を選択する。選択したファイルは[ファイル名]エントリ、および、[種別]ラジオボタンに反映される。
2	コマンド	エントリ(テキストボックス)	ALT+C	テスト対象のコマンド名を指定する。 ツリー上のファイルを選択したときは自動的に選択中のファイルが絶対パスで表示されるが、本部品に手入力でも指定することもできる。 【最大長】4096文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力不可
3	パラメタ	エントリ(テキストボックス)	ALT+P	テスト対象コマンドの起動パラメタを指定する。 【最大長】4096文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可
4	期待する復帰値	エントリ(テキストボックス)	ALT+R	テスト対象コマンドの期待する復帰値を指定する。 【最大長】32文字 【初期値】無し 【入力チェック】未入力可
5	追加	ボタン	ALT+A	[コマンド]エントリ、[パラメタ]エントリ、[期待する復帰値]エントリの状態を[テスト一覧]リストに追加する。
6	テスト一覧	ツリービュー(リスト)	ALT+D	設定されたテスト項目の一覧を表示する。表示する項目は「コマンド名」、「パラメタ」、「復帰値」、「結果」の4項目。なお、「結果」欄はテストを実施済みの項目のみ「OK」または「NG」が表示され、未テストの項目は空欄で表示される。
7	削除	ボタン	ALT+R	[テスト一覧]リストから選択中のテスト項目を削除する。

自動テスト設定画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	ツリー上のファイル(ディレクトリ)クリック時	1 選択しているファイル(ディレクトリ)の絶対パスを[コマンド]エントリに設定する。
2	追加ボタンクリック時	1 [コマンド]、[パラメタ]、[期待する復帰値]の内容を[テスト一覧]リストに追加する。 既に同一のテスト項目が存在している場合は追加しない。
3	削除ボタンクリック時	1 [テスト一覧]リストで選択中のテスト項目をリストから削除する。

自動テスト設定画面の「テスト一覧」リストのポップアップメニュー

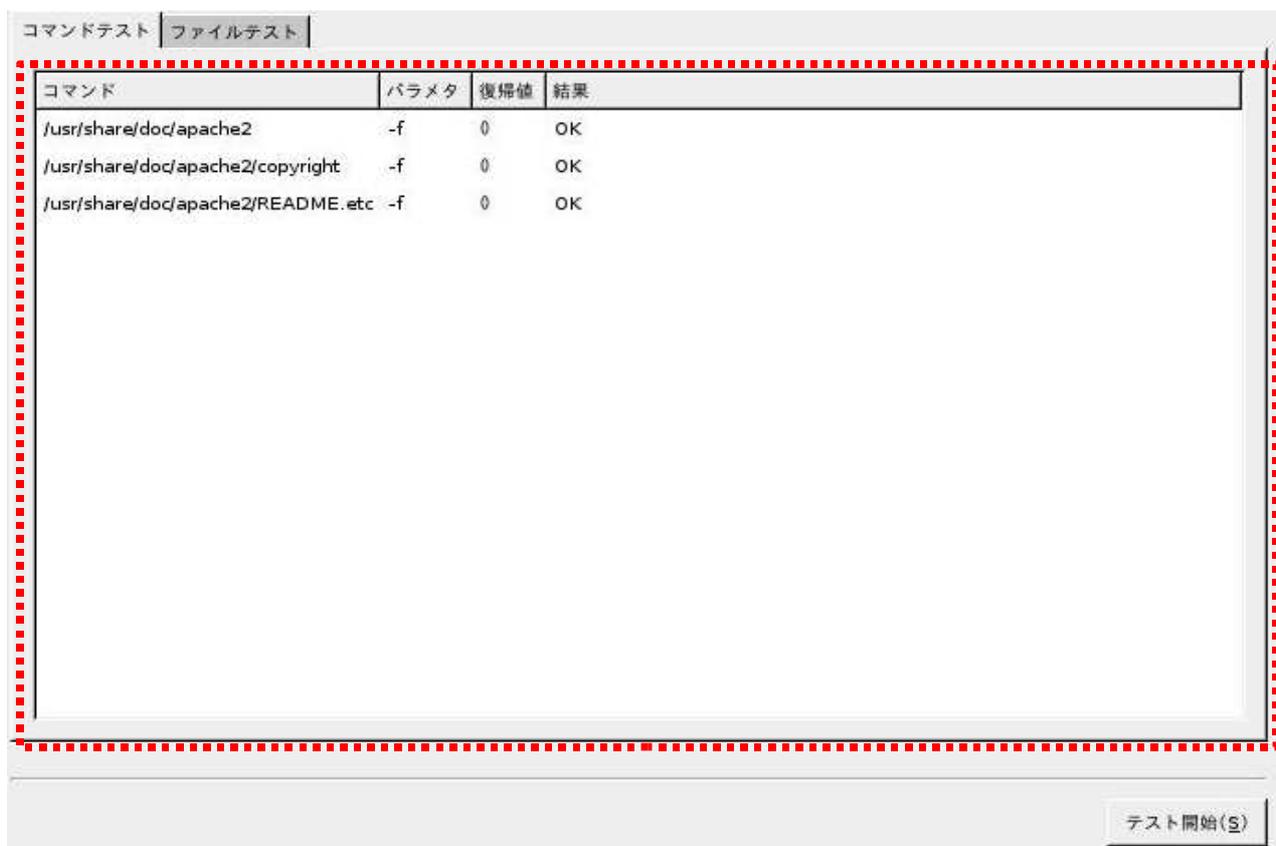
削除(D)	メニュー項目	アクセスキー	ショートカットキー
	削除	D	なし

以下に各メニュー項目選択時の動作を示す。

メニュー項目	選択時の動作
削除	リスト内の項目が未選択の場合、グレーアウトして表示する(選択不可)。 選択時の動作は削除ボタンのクリック時と同じ。

【自動テストの実行画面の[コマンドテスト]タブ】

自動テスト実行画面の[コマンドテスト]タブではコマンド実行テストの項目、および、テスト結果をリストで一覧表示する。



点線で囲んだ部分を本プラグインで表示する。

自動テスト実行画面の右上ペインの部品説明

項番	名前	部品	ショートカット	説明
1	テスト一覧	ツリービュー (リスト)		設定されたテスト項目の一覧を表示する。表示する項目は「コマンド」、「パラメタ」、「復帰値」、「結果」の4項目。なお、「結果」欄はテストを実施済みの項目のみ「OK」または「NG」が表示され、未テストの項目は空欄で表示される。

自動テスト実行画面の右上ペインのイベント処理

項番	イベント	処理内容
1	テスト開始ボタン クリック時	1 自動テスト画面からプラグインの「テスト実行」処理が呼び出される。 2 [テスト一覧]リストの上から順にテスト内容を取り出し、リマスタリング OS 上でコマンドに指定されたパラメタを付けて実行し、期待する復帰値とコマンドの復帰値を比較する。 3 2の結果期待する結果が得られたテスト項目はリストの結果欄に「OK」を設定する。 4 2の結果期待する結果が得られなかったテスト項目はリストの結果欄に「NG」を設定する。

自動テスト設定画面の[テスト一覧]リストのポップアップメニューなし